

平成23年度

学習指導計画(シラバス)

岩手県立盛岡第一高等学校

平成23年度 学習指導計画

目 次

【国語】

国語総合（第1学年・全）	1
現代文（第2学年・全）	2
古典（第2学年・普通科）	3
古典（第2学年・理数科）	4
現代文（第3学年・全）	5
古典（第3学年・全）	6

【地理歴史・公民】

世界史A（第2学年・普通科理系、理数科）	7
世界史B（第2学年・普通科）	8
世界史B（第3学年・普通科）	9
日本史A（第2学年・普通科理系）	10
日本史B（第2学年・普通科文系）	11
日本史B（第2学年・普通科理系）	12
日本史B（第3学年・普通科文系）	13
日本史B（第3学年・普通科理系）	14
地理A（第2学年普通科理系）	15
地理B（第2学年・全）	16
地理B（第3学年・全）	17
現代社会・政経分野（第1学年・全）	18
現代社会・倫理分野（第1学年・全）	19
政治・経済（第3学年・普通科文系）	20
倫理（第3学年・普通科文系）	21

【数 学】

数学Ⅰ・A・Ⅱ（第1学年・普通科）	22
理数数学Ⅰ・Ⅱ（第1学年・理数科）	23
数学Ⅱ・B（第2学年・普通科文系）	24
数学Ⅱ・B・Ⅲ（第2学年・普通科理系）	25
理数数学Ⅱ・理数数学探究（第2学年・理数科）	26
数学Ⅱ・B（第3学年・普通科文系）	27
数学Ⅲ・C（第3学年・普通科理系）	28
理数数学Ⅱ・理数数学探究（第3学年・理数科）	29

【理 科】

理科総合A・物理分野（第1学年・全）	30
理科総合A・化学分野（第1学年・全）	31
物理Ⅰ（第2学年・普通科理系）	32
理数物理（第2学年・理数科）	33
物理Ⅱ（第3学年・普通科理系）	34
理数物理（第3学年・理数科）	35
化学Ⅰ（第2学年・普通科理系）	36
理数化学（第2学年・理数科）	37
化学Ⅱ（第3学年・普通科理系）	38
理数化学（第3学年・理数科）	39

生物Ⅰ（第2学年・普通科文系）	40
生物Ⅰ（第2学年・普通科理系）	41
理数生物（第2学年・理数科）	42
生物Ⅰ（第3学年・普通科文系）	43
生物Ⅱ（第3学年・普通理系）	44
理数生物（第3学年・理数科）	45
地学Ⅰ（第2学年・普通科文系）	46
地学Ⅰ（第3学年・普通科文系）	47
【保健体育】	
体育（第1学年・全）	48
体育（第2学年・全）	49
体育（第3学年・全）	50
保健（第1学年・全）	51
保健（第2学年・全）	52
【芸術】	
音楽Ⅰ（第1学年・全）	53
音楽Ⅱ（第2学年・普通科）	54
美術Ⅰ（第1学年・全）	55
美術Ⅱ（第2学年・普通科）	56
書道Ⅰ（第1学年・全）	57
書道Ⅱ（第2学年・普通科）	58
【外国語】	
英語Ⅰ（第1学年・全）	59
英語Ⅱ（第2学年・全）	60
ライティング（第2学年・全）	62
リーディング（第3学年・全）	63
ライティング（第3学年・全）	64
【家庭】	
家庭基礎（第1学年・全）	65
【情報】	
情報C（第1学年・全）	66
【総合的な学習の時間】	
総合的な学習の時間（1学年・全）	67
総合的な学習の時間（2学年・普通科）	68
総合的な学習の時間（2学年・理数科）	69
総合的な学習の時間（3学年・全）	70
【LHR年間計画表】	71
【平成23年度教育課程】	72

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
国語	国語総合	1年普通科・理数科(5単位)	必須
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・国語の多様な文章を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、進んで表現する力、読書することによって人生を豊かにする態度を養う。</p>		<p>・教科書 国語総合現代文編・古典編(大修館) ・評論 ちくま評論入門(筑摩書房) ・古典文法 体系古典文法(教研出版) ・便覧 新訂総合国語便覧(第一学習社) ・漢文 漢文必携(桐原書店) ・漢字 頻出漢字マスター3000(尚文出版)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 [現代文] ・水の東西・羅生門・「しきり」の文化論(『四、さまざまな文章』より一時間程度の演習) [古文] ・児のそら寝・絵仏師良秀・阿蘇の史 [漢文] ・漢文訓読のきまり・訓読に親しむ 再読文字のまとめ</p> <p>【前期末】 [現代文] ・小説「夢十夜」・小説「とんかつ」 ・評論「自然と人間の間を通って考える」 ・評論「言葉についての新しい認識」 [古文] ・徒然草 これも仁和寺の法師 奥山に猫またといふもの ある人、弓射ることを習ふに高名の木登り をりふしの移り変はるこそ [漢文] ・五十歩百歩・矛盾・蛇足・朝三暮四</p> <p>【後期中間】 [現代文] 小説「セメント樽の中の手紙」 評論(四)「短歌を訳す」 短歌・俳句 小説「城の崎にて」 [古文] 枕草子「春はあけぼの」「虫は」「はしたなきもの」「雪のいと高う降りたるを」 [漢文]「先從隗始」「臥薪嘗胆」</p> <p>【後期末】 [現代文] 評論(五) 小説「なめとこ山の熊」 評論(六) 詩歌 [古文] 「竹取物語」「伊勢物語」 「土佐日記」「平家物語」 [漢文] 絶句 律詩 「論語」「孟子」</p>		<p>評論、小説を的確に読み取る基礎力をつける。 構成、表現に留意して、主題を文脈に沿って読解する。社会や人間に対する問題意識と基礎的な教養を養う。 古典学習の方法を学び、音読・現代語訳できる力を養う。 古典文の特色、品詞・用言の活用、基本的助動詞・助詞を学ぶ。場面の展開を追いながら物語を読み取る。 漢文の特徴と訓読、音読、現代語訳の基本を習得する。 短い漢文を読み慣れ、主題をつかむ。白文読みする。 (白文読みは、毎学期末に行う。)</p> <p>構成・主題を押さえて、表現に注意しながら、作品の世界を味わう。 ・評論を読解力を高めながら、言語について認識を深め、文学作品の修辞について理解する。作品の感動の中心を人間と人間、人間と自然界の間を通って考える。</p> <p>随筆の世界を味わい、的確に現代語訳する力を付ける。 基本的な助動詞・助詞や敬語を習得する。古文読解に習熟し、修辞にも留意して古典物語・日記を味わう。助動詞・主要助詞・敬語 故事成語の由来を理解し、比喩の内容や人間の心理を考える。</p> <p>小説の世界を味わい、登場人物の心情を理解するとともに人間心理に対する理解を深める。</p> <p>随筆の世界を味わうとともに、作品の背景や特徴を理解する。 登場人物の関係を把握し、心情を理解するとともに現代に通ずる普遍的な主題を考える。</p> <p>韻文を鑑賞し、作者の心情を理解する。 様々な物語や日記文学に触れ、比較を通して古典文学に対する理解を深める。 思想的な文章を理解する。</p>	
<p>・授業における取り組み状況 ・定期考査 ・小テスト・課題テスト ・提出物(週末課題・授業レポート・ノート等)</p>		<p>・現代文 毎時間漢字の小テストを実施。また、辞書を引き、多読し、基礎教養と語彙力を付ける。 ・古典 予習=原文音読と書写・口語(現代語)訳(漢文は書き下し文も書く)→授業=予習の修正・深化。内容がよく分かり、深く分かるための読解の方法を学ぶ。 →復習=重要事項の暗記と読解の方法を習得する。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
国語	現代文	2年普通科・理数科(2単位)	必須
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・評論、小説を中心に現代文の多様な文章を読む能力と技術を養い、ものの見方・感じ方を広め深める。また、表現する力を伸ばして、読むこと、書くことの力を人間形成に生かし、時代と社会を自ら先駆的に切り開く若者たる人間力を作る。</p>		<p>・教科書 精選現代文(大修館) ・評論 ちくま評論入門(筑摩書房) ・現代文用語集 現代文単語(桐原書店) ・漢字 頻出漢字マスター3000(尚文出版)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 ・『私の愛するノート』(小川洋子) ・『木ヲ植エル』(新井満) ・『ミロのヴィーナス』(清岡卓行) ・『山月記』(中島敦)</p> <p>【前期末】 ・『大人への条件』(小浜逸夫) ・『レキシントンの幽霊』(村上春樹) ・『永訣の朝』(宮澤賢治) ・『ものごとば』(鈴木孝夫) ・『「的」のつく言葉』(鈴木修二)</p> <p>【後期中間】 ・『ころ』(夏目漱石) ・『モード化する社会』(鷲田清和) ・『科学の現在を問う』(村上陽一郎)</p> <p>【学年末】 ・『情報の力関係』(佐藤雅彦) ・『「である」ことと「する」こと』(丸山真男) ・『世界は、今——「多文化世界」の構築』(青木保)</p>		<p>◦ 評論・小説を的確に読解して内容を説明する方法論と技術を意識しながら読む。 ◦ 構成、表現に留意して、主題を文脈に沿って読解する。 ◦ 書くことと読むことの力、社会や人間存在に対する問題意識を持ち、考えを深める。</p> <p>◦ 構成・主題を押さえて、表現に注意しながら、詩・小説作品の世界を味わう。また、本校の偉大なる先輩・宮澤賢治について理解を深める。 ◦ 評論の読解を通して、近代の「子供」と大人の関わり、言葉・言葉の人間の関わりについて理解を深める。 ◦ 本学は特に文章を速読する力を養うことを目標とする。</p> <p>◦ 人間と人間の関わりを「ころ」のドラマを通して考えるとともに、作品の表現を味わう。 ◦ 社会と科学の有り様に理解を深め、それを現代社会を生きる自らの問題意識として持つ。</p> <p>◦ 近代・現代社会に理解を深め、一年間の学習を通して、現代を生きる問題は那边にあるかをとらえ、三年生での現代文の学習に備える。 ◦ 現代文を読む方法や技術が身についたか、チェックし、特に評論の読解力の完成を目指す。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・授業における取り組み状況 ・定期考査 ・小テスト(『現代文単語』) ・提出物(週末課題・長期休業課題・課題シート、スクラップリレーブック等)</p>		<p>◦ 学習課題シートの予習＝指定された記述問題の解答を書く。→授業での深化・修正。また、辞書を引き、教科書の「現代文キーワード」、『現代文単語』によって語彙力と基礎教養を付ける。 ◦ 週末課題・長期休業課題などを通して、押さえ所を意識した読解と、本文そのものから教養を得る。 ◦ 日常の読書(“カバンに常に一冊の文庫本 or 新書を”)やスクラップリレーブックによって、問題意識と教養を高める。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
国語	古典	2年普通科(3単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。		・教科書 古典(大修館書店) ・参考書 【古文】新しい古典文法(桐原書店) 古文単語315(桐原書店) 【漢文】高校漢文(東京書籍)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 [古文] ・『宇治拾遺物語』「検非違使忠明の事」 ・『十訓抄』「大江山いくのの道」 ・『徒然草』「家居のつきづきしく」「応長のころ、伊勢の国より」「花は盛りに」 ・『平家物語』「宇治川の先陣」 [漢文] ・故事成語「助長」「知音」「画竜点睛」「漱石枕流」「糟糠之妻」「塞翁馬」 ・『史記』「鴻門の会」 【前期末】 [古文] ・『平家物語』「能登殿最期」 ・『枕草子』「中納言参りたまひて」「二月のつごもりごろに」 ・『伊勢物語』「初冠」「月やあらぬ」「関守」 [漢文] ・『史記』「項王の最期」 ・漢詩「江南春」「秋浦歌」「登高」 ・文章「桃花源記」 【後期中間】 [古文] ・『大和物語』「をばすて」 ・『大鏡』「道真左遷」「競べ弓」「花山院の出家」 [漢文] ・文章「捕蛇者説」 ・思想「論語」「孟子」「荀子」 【学年末】 [古文] ・『土佐日記』「羽根」 ・『更科日記』「あこがれ」 ・『源氏物語』「桐壺」「若紫」 [漢文] ・思想「老子」「韓非子」 ・小説「定伯売鬼」		[古文、漢文共通] ・2年生までに学習した文法事項、句法、単語などを活用しながら文章全体を理解する力をつける。 [古文] ・古文の読みに慣れ、古典に親しむとともに、用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 [漢文] ・漢文訓読に慣れ、基本的な句法を理解する。 ・現代でもよく使われている故事成語の成り立ちを、文脈に沿ってとらえる [古文] ・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読みとり、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする。 ・歌物語の特徴、和歌と地の文との関係や表現技法を理解し味読する。 [漢文] ・漢詩の様々な表現に触れ、味わうことにより、言語感覚を豊かにする。 ・寓話的物語により何を訴えたかったのか考える。 [古文] ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているか考える。 [漢文] ・論理的な漢文を正しく理解し、論旨の展開をとらえ、主題を把握する力をつける。 ・中国の代表的な思想に触れ、ものの見方や考え方を広げる。 [古文] ・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。 [漢文] ・登場人物、場面の移り変わりをとらえ、物語の構成や展開を的確に理解する。	
評価方法		学習の方法	
・授業への取り組み(予習、復習などの取り組み状況、授業時の発表などの参加の様子) ・定期考査 ・小テスト・課題テスト ・各種課題の提出状況		・予習＝原文音読と書写・現代語訳(漢文は書き下し文も書く)→授業＝予習の修正・深化。内容がよく分かり、深く分かるための読解の方法を学ぶ。→復習＝重要事項の暗記と読解の方法を習得する。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
国語	古典	理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。		・教科書 古典(大修館書店) ・参考書 【古文】新しい古典文法(桐原書店) 古文単語315(桐原書店) 【漢文】高校漢文(東京書籍)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 [古文] ・『宇治拾遺物語』「検非違使忠明の事」 ・『十訓抄』「大江山いくのの道」 ・『徒然草』「家居のつきづきしく」「花は盛りに」 ・『平家物語』「宇治川の先陣」 [漢文] ・故事成語「助長」「知音」「画竜点睛」「漱石枕流」「糟糠之妻」「塞翁馬」 ・『史記』「鴻門の会」 【前期末】 [古文] ・『平家物語』「能登殿最期」 ・『枕草子』「中納言参りたまひて」「二月のつごもりごろに」 ・『伊勢物語』「初冠」「月やあらぬ」 [漢文] ・『史記』「項王の最期」 ・漢詩「江南春」「秋浦歌」「登高」 ・文章「桃花源記」 【後期中間】 [古文] ・『大和物語』「をばすて」 ・『大鏡』「道真左遷」「花山院の出家」 [漢文] ・文章「捕蛇者説」 ・思想「論語」「孟子」「荀子」 【学年末】 [古文] ・『土佐日記』「羽根」 ・『更科日記』「あこがれ」 ・『源氏物語』「桐壺」 [漢文] ・思想「老子」「韓非子」 ・小説「定伯売鬼」		[古文、漢文共通] ・2年生までに学習した文法事項、句法、単語などを活用しながら文章全体を理解する力をつける。 [古文] ・古文の読みに慣れ、古典に親しむとともに、用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 [漢文] ・漢文訓読に慣れ、基本的な句法を理解する。 ・現代でもよく使われている故事成語の成り立ちを、文脈に沿ってとらえる [古文] ・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読みとり、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする。 ・歌物語の特徴、和歌と地の文との関係や表現技法を理解し味読する [漢文] ・漢詩の様々な表現に触れ、味わうことにより、言語感覚を豊かにする。 ・寓話的物語により何を訴えたかったのか考える。 [古文] ・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているか考える。 [漢文] ・論理的な漢文を正しく読解し、論旨の展開をとらえ、主題を把握する力をつける。 ・中国の代表的な思想に触れ、ものの見方や考え方を広げる。 [古文] ・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。 [漢文] ・登場人物、場面の移り変わりをとらえ、物語の構成や展開を的確に理解する。	
評価方法		学習の方法	
・授業への取り組み(予習、復習などの取り組み状況、授業時の発表などの参加の様子) ・定期考査 ・小テスト・課題テスト ・各種課題の提出状況		・予習＝原文音読と書写・現代語訳(漢文は書き下し文も書く)→授業＝予習の修正・深化。内容がよく分かり、深く分かるための読解の方法を学ぶ。→復習＝重要事項の暗記と読解の方法を習得する。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
国語	現代文	3年普通科・理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新精選現代文(明治書院) ・資料集 クリアカラー国語便覧(数研出版) 生きる漢字・語彙力(駿台文庫) 現代文キーワード(河合出版) ・副教材 ちくま評論選(筑摩書房) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>○随想「孤独の必然性」</p> <p>○評論「旅の変容」</p> <p>○評論「和のからだ」</p> <p>【前期末】</p> <p>○小説「檸檬」</p> <p>○評論「言葉について」</p> <p>○評論「地図の想像力」</p> <p>【後期中間】</p> <p>○小説「オデュッセイア」</p> <p>○評論「他者の声 実在の声」</p> <p>○評論「視線の中の身体」</p> <p>【学年末】</p> <p>○センター試験・二次試験に向けての演習</p>		<p>【前期中間】</p> <p>文章理解のための読解の基礎について再確認する。随想では、筆者の思考に沿って、人間の孤独について考える。評論では、さまざまな具体例によって筆者の考えが論証される文章を読みとり、自分の考えを持つ。</p> <p>【前期末】</p> <p>様々なジャンルの小説・評論を読み、読解力をさらに向上させ、理解したものを自分の言葉で表現する。日本語の持つ特徴を学ぶ。広い視野で人間について考える。</p> <p>【後期中間】</p> <p>様々な小説作品に親しむ。筆者の主張や表現についての的確に理解、要約し、自分の意見を持つ。</p> <p>【学年末】</p> <p>これまでに培ってきた現代文読解の力をもとに、筆者がその文章で述べる内容を、論理的な展開に注意しながら読み、その文章全体を理解し、要約できる力を付ける。小説では、登場人物の行動を追いながら文章を読み、登場人物の心情を考える。近代や現代が抱える人間の課題や人間の生などについて述べた文章を読み、理解を深める。常用漢字の理解を確かなものにする。慣用的な表現の理解を確かなものにする。</p>	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み (予習、復習などの取り組み状況、授業時の発表などの参加の様子) ・定期考査 ・小テスト(漢字等) ・週末課題 (積極的な学習姿勢として評価する) 		<ol style="list-style-type: none"> 1 「授業第一主義」の考えのもと、「予習で自分の課題を明確に→授業→復習で学習事項を定着させる」のサイクルを大切にする。 2 論理的な展開に注意しながら評論を読み、その文章全体を読解し、要約する。 3 読解したものを自分の言葉で表現する。 4 辞書やキーワード集などを活用しながら語彙を自分のものにする。 5 積極的に読書に取り組み、自分一人で文章を読み、考え、理解し、その考えを文章にまとめる経験を積み重ねる。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
国語	古典	3年普通科・理数科(3単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>古典としての古文、漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。</p>		<p>・教科書 古典(三省堂) ・参考書 【古文】体系古典文法(数研出版) 古文単語320(尚文出版) 【漢文】新明説漢文(尚文出版)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 〔古文〕 『大鏡』『雲林院の菩提講』『肝試し』 『大和物語』『安積山』 『枕草子』『中納言参り給ひて』 「二月つごもりごろに」 〔漢文〕 思想「論語」「孟子」「老子」「荘子」</p> <p>【前期末】 〔古文〕 『徒然草』『世に語り伝ふること』 『蜻蛉日記』『うつろひたる菊』『鷹』 『和泉式部日記』 「夢よりはかなき世の中を」 〔漢文〕 漢詩「把酒問月」「兵車行」 小説「杜子春伝」</p> <p>【後期中間】 〔古文〕 『平家物語』『忠度の都落ち』 『源氏物語』『須磨』 『毎月抄』『心と詞』 『正徹物語』『亡き人恋ふる』 〔漢文〕 思想「荀子」「墨子」「韓非子」</p> <p>【学年末】 センター試験・二次試験に向けての問題演習</p>		<p>〔古文、漢文共通〕 2年生までに学習した文法事項、句法、単語などを活用しながら文章全体を理解する力をつける。</p> <p>〔古文〕 場面設定を理解し、登場人物の心の動きに注目しながら、作者が表現しようとしたことを考える。和歌に関する知識を学習し、和歌の内容から、作者の着眼点を整理し、情景を思い浮かべる。</p> <p>〔漢文〕 中国の思想について理解し、見識を深める。</p> <p>〔古文〕 文章全体の現代語訳をつつ、筆者の感性や主張などを理解する読解力を養う。</p> <p>〔漢文〕 漢詩について修辞技巧に関する知識を学習し、作者の心情を理解する。登場人物の生き方を把握し、それを通して作者が何を主張しているかを考える。</p> <p>〔古文〕 必要な語句を補いながら文章全体を捉える力をつける。また、場面設定を把握し、光源氏など登場人物の心情を読みとり、表現する力をつける。</p> <p>〔漢文〕 作者が何を主張しているかを理解し、見識を深める。</p> <p>高校三年間の古典の学習の総仕上げとして、学習した文法や句法、単語の力をもとに正確に現代語訳し、内容を把握した上で自分の考えを持ち、それを表現する力を付ける。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・授業への取り組み (予習、復習などの取り組み状況、授業時の発表などの参加の様子)</p> <p>・定期考査</p> <p>・小テスト(単語等)</p> <p>・週末課題 (積極的な学習姿勢として評価する)</p>		<p>1 「授業第一主義」の考えのもと、「予習で自分の課題を明確に→授業→復習で学習事項を定着させる」のサイクルを大切にする。</p> <p>2 本文を文法、古文単語、句法、重要語に注意しながら現代語訳する。</p> <p>3 場面設定や筆者の主張、登場人物の心情を把握する。</p> <p>4 2、3について正しい現代語として表現する。</p> <p>5 当時の人々の考え方、価値観、文化に理解を深める。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	世界史A	2年普通科理系/理数科 2単位	理系選択/理数科必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>		<p>・教科書 現代の世界史 (山川出版社) ・資料集 グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 I-1章 諸地域の特質 2章 東西世界の交流 II-1章 大航海時代とヨーロッパ 2章 アジア諸国の繁栄</p> <p>【前期末】 I-2章 アジア諸国の繁栄 II-3章 拡大する近世ヨーロッパ 4章 近代の欧米社会</p> <p>【後期中間】 II-5章 ヨーロッパの進出とアジア 6章 帝国主義の時代 III-1章 20世紀の特質</p> <p>【学年末】 III-2章 二つの世界大戦 3章 東西2陣営の対立 4章 20世紀から21世紀へ</p>		<p>・自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質を理解させる。 ・大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流を通して、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>・産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p> <p>・帝国主義国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向 アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査得点 →各期の内容について、共通部分と授業担当者の指示による部分があるので、詳細については個々に説明する。</p> <p>・出席、課題提出状況および授業態度等。</p>		<p>・授業に集中し、ワークノートを有効に使用する。 ・教科書をよく読み、歴史の流れを把握する。 →さらに、世界史上で、大きな国の変遷、歴史を変えた人物については、文学・芸術などに大きな影響を与えているので、外国語、国語などの教科内容にも関わる。資料集の活用など、世界史の時間だけでなく、幅広く関心を向けること。 ・現代社会で既習した内容および日本史・地理との関連に注目し、日本や世界の歴史・地域形成過程に目を向ける。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	世界史B	2年普通科 文系4単位/理系3単位	文系必修/理系選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>		<p>・教科書 詳説世界史 改訂版(山川出版社) ・資料集 グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 序章 先史の時代 第1章 オリエンと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 東アジア世界の形成と発展</p> <p>【前期末】 第3章 東アジア世界の形成と発展 第4章 内陸アジア世界の変遷 第5章 イスラーム世界の形成と発展</p> <p>【後期中間】 第5章 イスラーム世界の形成と発展 第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第7章 諸地域世界の交流</p> <p>【学年末】 第8章 アジア諸地域の繁栄 第9章 近代ヨーロッパの成立 第10章以降第17章まで、近現代世界の概観</p>		<p>・西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエン文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文化に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。 ・東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>・アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム文化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を理解させる。</p> <p>・西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中での日本の位置づけを理解させる。 ・科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査得点 ・小テスト ・課題提出状況</p>		<p>・授業プリントをよく整理し、歴史の流れを捕らえ、因果関係や特徴を把握する。 ・地図を活用し、歴史の展開を具体的にイメージできるようにする。 ・いつの時代の話なのか、常に年代を意識することを心がける。 ・教科書のみならず資料集を積極的に利用し、歴史の事象を多角的に捕らえるようにする。 ・世界史で学習した知識をもとに、現代世界で起きている諸問題に関連させられる視点を持つようにする。 ・世界の歴史と日本の歴史の関連を理解しながら、日本の位置づけを意識する。 ・授業に集中し、単なる記憶ではなく歴史の事象を理解するように努める。 ・問題演習に効率的に取り組み、知識の定着を單元ごとに確認する。 ・小テストごとに復習する習慣を身につける。</p>	

教科名	科目名	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	世界史B	3年普通科（文系4単位・理系3単位）	選 択
到達目標（ねらい）		使用教科書・教材	
<p>・世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p>		<p>・教科書 詳説世界史B 改訂版（山川出版社） ・資料集 グローバルワイド 最新世界史図表（第一学習社）</p>	
学習内容（学習時期）		学習到達目標（ねらい）	
<p>【前期中間】 第8章 アジア諸地域の繁栄 第9章 近代ヨーロッパの成立 大航海時代・ルネサンス・宗教改革 第10章 ヨーロッパ主権国家体制の成立 絶対主義諸国家・ヨーロッパの海外進出 第11章 欧米における近代社会の成長 産業革命・アメリカ独立・フランス革命 【前期末】 第12章 欧米における近代国民国家の発展 ヨーロッパ再編・アメリカ合衆国の発展 第13章 アジア諸地域の動揺 オスマン帝国の動揺・アジアの植民地化 第14章 帝国主義とアジアの民族運動 世界分割・アジア諸国の改革と民族運動 【後期中間】 第15章 二つの世界大戦 第一次世界大戦・ナショナリズムの高揚 世界恐慌とファシズム・第二次世界大戦 第16章 冷戦と第三世界の成立 冷戦構造・第三世界の自立と危機 第17章 現代の世界 多極化・社会主義世界の解体 【学年末】 マーク演習（センター試験対策） 論述演習（国公立大学二次対策）</p>		<p>・西・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮等との関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中での日本の位置づけを理解させる。 ・近代ヨーロッパの成立と、主権国家体制、大西洋貿易を扱い、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質と他地域との関係を理解する。 ・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立などのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革について学ぶ。 ・18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア進出と、アジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀から20世紀にかけてのアジアとヨーロッパの関係および世界の支配・従属関係を伴う一体化について学ぶ。 ・二つの世界大戦、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族運動などを扱い、20世紀前半の世界の動向と社会の特質を理解する。 ・冷戦期の世界の動向について学んだ後、冷戦の終結と地球社会の到来、地域統合の進展などを通じて、現代社会の動向を理解する。 ・演習を通じて、大学受験に必要な知識を学ぶ。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・年3回の各定期考査得点 ・小テスト ・課題提出状況</p>		<p>・授業プリントを配布し、歴史の流れを捕らえ、因果関係や特徴を把握する。地図を活用し、歴史の展開を具体的にイメージできるようにする。 ・教科書のみならず資料集を積極的に利用し、歴史の事象を多角的に捕らえるようにする。 ・世界史で得た知識をもとに、現代世界で起きている諸問題に関連させられる視点を持つようにする。 ・世界の歴史と日本の歴史の関連を理解しながら、日本の位置づけを意識する。 ・授業に集中し、単なる記憶ではなく歴史の事象を理解するように努める。 ・授業の合間に問題演習を取り入れ、知識の定着を單元ごとに確認する。 ・小テストごとに復習する習慣を身につける。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史A	2年普通科・理系(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
近現代史の展開について、『新学習指導要領』を踏まえ、世界史や地理などの知見を援用しながら、今日の諸課題に着目した考察を行い、歴史的思考力を培うとともに、国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。		○教科書：現代の日本(山川出版社) ○副教材：現代の日本史ノート(山川出版社)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 序章 近代以前の日本 1 近代国家のできるまで 2 近世の国家と社会 3 対外関係の変化 第1章 開国と維新 1 東アジア国際環境の変化と開国 2 政治秩序の崩壊 3 明治維新と革新政策 4 対外関係の変革と内乱の終結 【前期末】 第2章 近代国家の形成と発展 1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題 4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い 7 日露戦後の国際関係と日本 第3章 産業化の推進と国民生活の変化 1 産業革命の進展 2 資本主義の確立とその特色 3 社会問題の発生 4 国民文化の形成 5 国民生活の変化 【後期中間】 第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー 1 第一次世界大戦と日本の外交 2 デモクラシーの高まりと政党 3 国際協調と軍縮の進展 4 政党政治の時代 5 大戦中から戦後の経済と社会 6 都市化と市民文化 第5章 第二次世界大戦と日本 1 昭和恐慌 2 協調外交の行きづまり 3 満州事変から国際的孤立へ 4 軍部の政治的台頭 5 中国との戦い 6 第二次世界大戦と世界新秩序 7 太平洋戦争 8 日本の敗北 【学年末】 第6章 占領下の日本 1 占領政策の展開 2 戦後民主主義の定着 3 政治・経済の再建 4 独立の回復 第7章 日本の自立と経済成長 1 55年体制の成立 2 安保体制下の日本 3 高度経済成長の光と影 4 経済大国 第8章 現代の世界と日本 1 冷戦の終り 2 国内政治の再編成 3 アジア・太平洋と日本 4 21世紀を迎えて		○前近代の歴史について概観する。 ○開国に至るまでの流れと開国後の国際関係や国内の動きについて理解を深める。 ○開国をめぐる欧米列強の動向と幕府・諸藩の対応について理解を深める。 ○明治新政府による「富国強兵」「殖産興業」政策の展開、自由民権運動と立憲制定に至る近代国家の形成過程について、西欧諸国の動向を踏まえて理解する。 ○日清・日露戦争がもたらした国内外への影響について、国際関係を踏まえながら、不平等条約の改正や国際的地位の向上を中心として理解を深める。 ○産業革命の達成と資本主義の確立、近代文化の形成について、社会の変化やそれに伴う諸問題に留意しながら理解を深める。 ○第一次世界大戦をめぐる国際社会の変化と日本の動向について、政党政治の成立と大正デモクラシーの展開、大衆社会並びに大衆文化の形成を軸として理解を深める。 ○昭和恐慌の克服のための海外市場拡大と日中戦争との関わりについて、国際社会の動向に注目しながら、軍部の台頭や財閥の経済支配、寄生地主制を中心として侵略戦争の構造を理解させる。 ○第二次世界大戦をめぐる国際社会の動向を踏まえ、日本が太平洋戦争に突入し、敗戦へと至る過程を理解させる。 ○戦後復興について、東西冷戦を背景として朝鮮戦争やサンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約などの国際情勢と関連づけて理解を深める。 ○高度経済成長について、保守安定政権や日米安全保障体制を軸として理解を深め、石油危機後の経済大国へと至る過程についても考察させる。 ○冷戦終結後の国際情勢や55年体制の崩壊、バブル経済の崩壊、グローバル社会の展開、少子高齢化の進行などを踏まえ、今後の日本の進むべき道について考察する。	
評価方法		学習の方法	
○出席、授業への取り組み状況 ○定期考査 ○提出物(現代の日本史ノート)		○総論から各論への展開をはかることにより、歴史の全体像の把握が容易になるよう学習させる。 ○基本的な史料や個別の事例については、その意味や根拠を考察することで、単なる暗記にとどまることなく、科学的な視点から歴史を理解する能力を養う。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	2年普通科文系(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
我が国の歴史の展開を、世界史的視野にたつて総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ※『学習指導要領』の科目の目標と同一		詳説 日本史B(山川出版社) 最新日本史図表(第一学習社) 必携日本史用語集(実教出版) 新詳述日本史史料集(実教出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 原始・古代 日本文化のあけぼの 律令国家の形成</p> <p>【前期末】 原始・古代 平安朝廷の形成 貴族政治と国風文化</p> <p>【後期中間】 中世 中世社会の成立 武家社会の成長</p> <p>【学年末】 中世 武家社会の成長 近世 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開</p>		<ul style="list-style-type: none"> 考古学的な発見をもとに、当時の日本人の社会の様子について理解する。 中国の影響を受け、律令制度を取り入れた日本が、どのようにして中央集権的な国家を形成したかを理解する。 律令制度の崩壊と、藤原北家による他氏排斥による摂関政治の展開、武士の成長について理解する。 武家政権が確立されていく流れと、その内容を理解する。 武家政権の構造と土地支配から鎌倉幕府の特色を理解し、武士の時代について考察する 建武の新政、南北朝の動乱、室町幕府成立の過程を理解する 下剋上の意味を理解し、現代の各地方の特徴がこの時代に由来すること多い事を気付かせる。 戦国大名の登場と、彼らの領国経営の方法・特色について理解する 幕藩体制の確立と諸制度の特色が、相互に関連していることを理解する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 定期考査 授業ノートのまとめ方 小テスト、暗唱テストなどの取り組み状況 		<ul style="list-style-type: none"> 授業は配布したプリントと板書を中心に行う。プリントを通じて歴史の流れをつかむこと。板書は教科書の内容・プリントの理解を助けるためにまとめるものである事を意識して授業に出席すること。 板書をただ写すのではなく、授業の内容を復習するときに、授業内容を思い出させる手がかりとなるような言葉を自分でまとめる習慣を身につけること。 教科書をよく読むこと。考査前学習をする際に、配布されたプリントや問題集を解答するだけで満足せず、問題演習をした直後に教科書を読み込み、理解を深める活動をする。 歴史の流れをつかむことを重視すること。経済や政治などの分野だけで考えず、文化や社会の様子などの背景となるものも理解することが大事である。 暗記中心ではないが、基礎的な事項はきちんと確認しながら学習する。漢字で書けるようにする。 教科書の写真・史料を必ず確認すること。当時の社会を知る上での重要な手がかりである。資料を読み取りそこから分かることをまとめる力を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	2年普通科・理系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>○通史を中心に日本文化や地域史も含む基礎的な歴史的教養を身につけ、各界のリーダーとして活躍するに足る資質を養う。</p> <p>○大学受験等に対応し得る知識・考察力を養う。</p> <p>○世界史的視野に立った歴史的思考力を培い、公民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>		<p>○教科書：改訂版 詳説日本史B(山川出版社)</p> <p>○副教材：最新日本史図表(第一学習社)</p> <p>○副教材：日本史学習ノート(山川出版社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 原始・古代</p> <p>(1)日本文化のあけぼの</p> <p>1)文化のはじまり</p> <p>2)農耕社会の成立</p> <p>3)古墳とヤマト政権</p> <p>(2)律令国家の形成</p> <p>1)飛鳥の朝廷</p> <p>2)律令国家の成立</p> <p>3)平城京の時代</p> <p>4)天平文化</p> <p>【前期末】</p> <p>5)平安初期の政治と文化</p> <p>(3)摂関政治と国風文化</p> <p>1)摂関政治</p> <p>2)国風文化</p> <p>3)荘園と武士</p> <p>2 中世</p> <p>(1)中世社会の成立</p> <p>1)院政と平氏の台頭</p> <p>2)鎌倉幕府の成立</p> <p>3)武士の社会</p> <p>4)蒙古来襲と幕府の衰退</p> <p>5)鎌倉文化</p> <p>【後期中間】</p> <p>(2)武家社会の成長</p> <p>1)室町幕府の成立</p> <p>2)幕府の衰退と庶民の台頭</p> <p>3)室町文化</p> <p>4)戦国大名の登場</p> <p>3 近世</p> <p>(1)幕藩体制の成立</p> <p>1)織豊政権</p> <p>2)桃山文化</p> <p>3)幕藩体制の成立</p> <p>(2)幕藩体制の展開</p> <p>1)幕政の安定</p> <p>【学年末】</p> <p>2)経済の発展</p> <p>3)元禄文化</p> <p>(3)幕藩体制の動揺</p> <p>1)幕政の改革</p> <p>2)幕府の衰退</p> <p>3)化政文化</p>		<p>○人類誕生と旧石器時代、縄文・弥生時代の社会や文化への理解を深め、日本人の形成過程について考察する。</p> <p>○弥生～古墳時代について、大陸の動向に着目しながら、地域統合の結果、古代前半期に位置づけ得るヤマト政権が形成されたことを理解する。</p> <p>○隋・唐など東アジアの周辺諸国の動向に着目しながら、推古朝、大化の改新、天武・持統朝などを画期とする律令国家の形成過程について理解を深める。</p> <p>○律令国家を古代後半期に位置づけ、律令体制や平城京造営、奈良時代の政治や社会等について理解を深める。</p> <p>○唐を中心とする東アジア世界の形成と国家仏教、国際色豊かな天平文化の成立、天智系皇統への交代と桓武・嵯峨朝を中心とする政治・文化等への理解を深める。</p> <p>○藤原北家の台頭と摂関政治の成立過程、弘仁・貞観文化や国風文化の背景について、律令制崩壊と王朝体制の成立、東アジア世界の激動、寄進地系荘園の成立と武士の発生など社会の変化等に着目して理解する。</p> <p>○院政から平氏政権の形成過程について、荘園公領制の確立や武士による在地領主権の強化、二大武士団の成長等に着目しながら、中世社会の成立として理解する。</p> <p>○幕府成立から執権政治確立へと至る武家政権について、武士の在地領主権確立と封建制の成立、公武二元支配、産業の発展と貨幣経済の展開、鎌倉新仏教を中心とする文化等に着目しながら理解を深める。</p> <p>○室町幕府の成立、南北朝の動乱と合一、倭寇の活動と日明貿易の開始、蝦夷ヶ島や琉球王国などについて東アジア諸国との交流を中心として理解させる。</p> <p>○応仁の乱を契機とする守護領国制から戦国大名の分国支配への転換、庶民の台頭と産業の発達、公武の文化融合や庶民、地方の文化について理解を深める。</p> <p>○世界史上の大航海時代と織豊政権下の諸政策を通じて、近世社会の成立と幕藩体制への継承を中心に理解する。</p> <p>○新興大名や都市豪商の台頭、南蛮文化の影響を背景とする桃山文化の性格、朝鮮出兵や日本人の海外発展などについて理解を深める。</p> <p>○国内諸制度の整備と文治政治への転換、鎖国体制下での四つの口を通じた対外交渉などについて理解させる。</p> <p>○産業の発展や都市の繁栄、町人の台頭と上方を中心とした元禄文化の成立について関連づけをはかる。</p> <p>○商品経済発展の一方、農民・町人層の分解など社会の構造変化による幕藩体制の動揺と幕政・藩政改革、幕府の衰退と雄藩の形成などについて理解を深める。</p> <p>○国学や洋学の発達、経政論の展開、新たな江戸の町人を中心とした化政文化の性格などについて理解する。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>○出席、授業への取り組み状況</p> <p>○定期考査</p> <p>○実力テスト</p> <p>○提出物(『日本史学習ノート』、長期休業中課題など)</p>		<p>○総論から各論への展開をはかることにより、歴史の全体像の把握が容易になるよう学習させる。</p> <p>○基本的な史料や個別の事例については、その意味や根拠を考察することで、単なる暗記にとどまることなく、科学的な視点から歴史を理解する能力を養う。</p> <p>○大学入試センター試験や東京大学入試過去問題等について、調査研究を行った上で作成した授業プリントによって、受験上の知識として欠落がないように学習させる。</p> <p>○各單元ごとに『日本史研究ノート』[応用編]を課題として提出させ、学習内容の定着を図る。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	3年普通科・文系(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>○通史を中心に日本文化や地域史も含む基礎的な教養を身につけ、各界のリーダーとして活躍するに足る資質を養う。</p> <p>○大学受験等に対応し得る知識・考察力を養う。</p> <p>○世界史的視野に立った歴史的思考力を培い、公民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>		<p>○教科書：改訂版 詳説日本史B(山川出版社)</p> <p>○副教材：新詳日本史(浜島書店)</p> <p>○問題集：新日本史研究ノート(啓隆社)</p> <p>○授業プリント(作成)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>3 近世</p> <p>(2)幕藩体制の展開</p> <p>1)幕政の安定</p> <p>2)経済の発展</p> <p>3)元禄文化</p> <p>(3)幕藩体制の動揺</p> <p>1)幕政の改革</p> <p>2)幕府の衰退</p> <p>3)化政文化</p> <p>【前期末】</p> <p>4 近代・現代</p> <p>(1)近代国家の成立</p> <p>1)開国と幕末の動乱</p> <p>2)明治維新と富国強兵</p> <p>3)立憲国家の成立と日清戦争</p> <p>4)日露戦争と国際関係</p> <p>5)近代産業の発展</p> <p>6)近代文化の発達</p> <p>(2)近代日本とアジア</p> <p>1)第一次世界大戦と日本</p> <p>2)ワシントン体制</p> <p>3)市民文化</p> <p>【学年末】</p> <p>4)恐慌の時代</p> <p>5)軍部の台頭</p> <p>6)第二次世界大戦</p> <p>(3)占領下の日本</p> <p>1)占領と改革</p> <p>2)冷戦の開始と講和</p> <p>(4)高度成長の時代</p> <p>1)55年体制</p> <p>2)経済復興から高度経済成長へ</p> <p>(5)激動する世界と日本</p> <p>1)経済大国への道</p> <p>2)冷戦終結と日本社会の動揺</p> <p>大学入試センター試験直前演習</p>		<p>○国内諸制度の整備と文治政治への転換、鎖国体制下での四つの口を通じた対外交渉などについて理解させる。</p> <p>○産業の発展や都市の繁栄、町人の台頭と上方を中心とした元禄文化の成立について関連づけをはかる。</p> <p>○商品経済発展の一方、農民・町人層の分解など社会の構造変化による幕藩体制の動揺と幕政・藩政改革、幕府の衰退と雄藩の形成などについて理解を深める。</p> <p>○国学や洋学の発達、経政論の展開、新たな江戸の町人を中心とした化政文化の性格などについて理解する。</p> <p>○欧米列強の動向を背景として、日本が開国と貿易の開始によって国際社会の一員となり、尊王攘夷運動の挫折と倒幕運動を経て明治維新へと至る過程を理解する。</p> <p>○富国強兵の国是の下、殖産興業・文明開化政策や諸制度改革が政府主導で急激に実施された点を理解する。</p> <p>○自由民権運動を嚆矢とする立憲国家体制の成立過程を学び、近代国家の形成について理解を深める。</p> <p>○日清・日露戦争を経て、国際関係とともに産業革命進展による日本の資本主義成立過程、社会問題や労働運動の発生、近代文化などについて理解する。</p> <p>○第一次世界大戦前後の国際社会、労働者の増加や高等教育の拡充と大衆社会の成立などを背景とする政党政治や社会・労働運動、大衆文化の展開等を理解する。</p> <p>○軍部と結ぶ財閥、革新官僚層が恐慌への対策として中国などでの権益維持と大陸での市場拡大を推進して日中戦争を惹起し、三国同盟が対米戦争を通じて第二次世界大戦への参戦、終戦へと至った過程を理解する。</p> <p>○占領下の戦後民主化諸政策、サンフランシスコ平和条約の調印による独立達成、日米安保体制と冷戦構造への参入等について、東西対立をふまえて理解を深める。</p> <p>○朝鮮戦争の特需景気、神武景気をきっかけとする戦後復興から高度経済成長への転換、安定した保守政権の下、国民生活や価値観の変化についても理解を深める。</p> <p>○ドル・ショックを経て、石油危機など世界経済や国際政治の動向にも注目し、高度成長の終焉と安定成長、日本が経済大国へと成長する過程について理解する。</p> <p>○貿易摩擦やバブル経済の発生と崩壊、55年体制の崩壊、冷戦構造の解体と民族問題や核拡散など、新たな国際情勢の流動化についても理解を深める。</p> <p>○既習事項について、大学入試センター試験過去問を中心とする問題演習を行い、その理解の深化を図る。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>○出席、授業への取り組み</p> <p>○定期考査</p> <p>○実力テスト</p> <p>○提出物(授業プリント、『日本史研究ノート』、長期休業中の課題など)</p>		<p>○総論から各論への展開をはかることにより、歴史の全体像の把握が容易になるよう学習させる。</p> <p>○基本的な史料や個別の事例については、その意味や根拠を考察することで、単なる暗記にとどまることなく、科学的な視点から歴史を理解する能力を養う。</p> <p>○大学入試センター試験や東京大学入試過去問題等について、調査研究を行った上で作成した授業プリントによって、受験上の知識として欠落がないように学習させる。</p> <p>○各学期ごとに『日本史研究ノート』並びに昨年度の定期考査問題を提出させ、学習内容の定着を図る。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	3年普通科理系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
我が国の歴史の展開を、世界史的視野にたつて総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ※『学習指導要領』の科目の目標と同一		詳説 日本史B(山川出版社) 新詳日本史(浜島出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 近世 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺</p> <p>【前期末】 近世 幕藩体制の動揺 近代・現代 近代国家の成立 近代日本とアジア</p> <p>【後期中間】 近代・現代 近代日本とアジア 占領下の日本 高度経済成長 激動する世界と日本</p> <p>【学年末】 センター直前演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の職制、民衆統制を学習することで、中世から近世に書けての社会の変化を理解させる。 武断政治から文治政治への転換の理由を多面的に理解させる。 幕政改革の矛盾と欧米列強の接近、蘭学や国学など新しい学問の台頭による思想上の変化について理解する。 明治新政府の諸制度に着目し、政府の目的と近代日本の特色を理解する。 日清・日露戦争を通じて、日本が列強の中でどのような立場になり得たかを理解し、世界史的意義を考察 満州事変から日中戦争への過程を多面的に考察する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 定期考査 提出物(課題レポート等) 		<ul style="list-style-type: none"> 歴史の流れをつかむことを重視する。経済や政治などの分野だけで考えず、文化や社会の様子などの背景となるものも理解することが大事である。 暗記中心ではないが、基礎的な事項はきちんと確認しながら学習する。 限られた時間の中で基本的な知識を定着させるには授業で完全理解に努めるだけでなく、期末考査にむけての学習を通じて復習をしっかりと行い、土日や長期休業中に既習範囲の復習をすることが必要。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	地理A	2年普通科理系(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書：高等学校 新地理A (帝国書院) 地図帳：新詳高等地図 (帝国書院) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間考査まで】</p> <p>1 私たちの地球をみつめる</p> <p>(1)球面上の世界と世界構成</p> <p>(2)結びつく現代世界</p> <p>(3)多様さを増す人間行動と現代世界</p> <p>【前期末考査まで】</p> <p>2 さまざまな地域の生活と環境</p> <p>(1)人間を取り巻く環境</p> <p>(2)世界の諸地域の生活・文化</p> <p>【後期中間考査まで】</p> <p>3 地球的に広がる課題</p> <p>(1)人口・食糧問題</p> <p>(2)都市・居住問題</p> <p>【学年末考査まで】</p> <p>(3)資源・エネルギー問題</p> <p>(4)環境問題</p>		<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地域性や動向を作業的学習も取り入れながらとらえるとともに、地理的スキルを身につける。 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて追求し、生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身につけるとともに、異文化を理解し尊重する意義について理解する。 環境、資源・エネルギー、人口、食料および居住・都市問題を地球のおよび地域的視野から追求し、地球的課題は地域を超えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決に当たっては各国の取り組みとともに国際協力が必要であることを理解する。 	
評価方法		学習の方法	
授業への出席および取組状況 定期考査		<ul style="list-style-type: none"> 何よりも授業に集中すること。 地理で学ぶ内容は、いま現在世界各地で起きている事件、紛争、自然災害等と密接に関連している。日頃から新聞やニュース番組等に接するよう努めてもらいたい。 	

教科名	科目名	開 講 期 (単位数)	必選別
地歴	地理B	2年普通科：文系(4単位), 理系(3単位) 2年理数科(2単位)	普通科：選択 理数科：必修
到達目標 (ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界に対する地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書：詳説新地理B (二宮書店) 地図帳：新詳高等地図 (帝国書院) 資料集：最新地理図表 (第一学習社) サブノート：新地理要点ノート (啓隆社) 	
学習内容 (学習時期)		学習到達目標 (ねらい)	
<p>【前期中間考査まで】</p> <p>地形 大地形 小地形 気候 気候要素</p> <p>【前期末考査まで】</p> <p>気候 ケッペンの気候区分 各気候区の特徴 陸水と海洋 農牧業 農牧業の成立条件 自給的農牧業</p> <p>【後期中間考査まで】</p> <p>農牧業 商業的農牧業 企業的農牧業 林業 水産業</p> <p>【学年末考査まで】</p> <p>鉱工業 エネルギー資源と鉱山資源 近代工業の立地 主な工業地域 都市・村落 現代世界の地誌的考察 国家規模の地域 州・大陸規模の地域 現代世界の諸課題 環境・エネルギー問題 人口・食糧問題 民族・領土問題</p>		<p>系統地理分野 (地形～都市・村落)</p> <p>自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について世界的視野から考察し、現代世界が多様な地域から構成されていること、それらの地域には類似性や空間的な規則性などがみられること、分布からいくつかのまとまりでとらえたり、いくつかの地域に区分したりできることを理解し、併せて現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身につける。</p> <p>地誌的分野 (現代世界の地誌的考察)</p> <p>地域の規模に応じて地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は多様な特色をもっていることを理解するとともに、世界諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点や方法を身につける。</p> <p>現代世界の諸課題</p> <p>現代の世界や日本が取り組む諸課題について、広い視野から地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的に考察する意義や有用性を認識できるようになる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席状況 日常的な課題の提出と取り組み状況 定期考査 <p>※評価は定期考査の結果を主、各種課題への取り組み状況を従として行うが、時期によって課題の分量等が異なることから、詳細については各考査期において授業担当者から説明する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 授業第一主義。何よりも授業に集中すること。 地理で学ぶ内容は、現在世界各地で起きている自然災害、事件、紛争等と密接に関連している。日頃から社会事象に注意を向けるよう努めてもらいたい。 地理の学習と他教科・科目の学習の最大の違いは常に地図を用いることにある。例えば、地名を知っているだけでは意味がない。必ず地図帳でその位置の確認を行うこと。 	

教科名	科目名	開講期（単位数）	必選別
地歴	地理B	3年普通科（文系4単位・理系3単位） 3年理数科（2単位）	普通科選択 理数科必修
到達目標（ねらい）		使用教科書・教材	
<p>・現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。</p>		<p>・教科書 詳説新地理B（二宮書店） ・地図 新詳高等地図初訂版（帝国書院） ・資料集 最新地理図表改訂版（第一学習社） ・統計 データブック（二宮書店）</p>	
学習内容（学習時期）		学習到達目標（ねらい）	
<p>【前期中間考査まで】 村落・都市 地図の活用 小縮尺図 大縮尺図（地形図）</p> <p>【前期末考査まで】 人口分布の特徴と人口問題 交通・通信 産業の国際化・情報化</p> <p>【後期中間考査まで】 人種・民族 国家と国家群 地域開発 地誌</p> <p>【後期中間考査以降】 マーク演習（センター試験対策） 論述演習（国公立大学二次対策）</p>		<p>系統地理分野（都市・村落～地域開発） 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について世界的視野から考察し、現代世界が多様な地域から構成されていること、それらの地域には類似性や空間的な規則性などがみられること、分布からいくつかのまとまりでとらえたり、いくつかの地域に区分したりできることを理解し、併せて現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身につける。</p> <p>地誌的分野 地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は多様な特色をもっていることを理解するとともに、世界諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点を身につける。</p> <p>後期中間考査以降は、演習を通じて大学受験に必要な知識の定着を図る。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査 →出題については、授業の他に課題等での内容を含み、関係する内容について他単元との関連でも出題される。詳細については各考査期において授業担当者から説明する。</p> <p>・授業への取り組み</p> <p>・小テスト、課題提出状況</p>		<p>・基本的知識の蓄積に加え、地図利用・統計解析力の向上を意識して学習する。</p> <p>・地理的な見方・考え方は、原則的な方法を習得して演繹的にとらえるだけでなく、時事的な世界の動きや個々の民族・地域性を重視することも大切である。常に外部情報に目を向ける。</p> <p>・自分自身で白地図に必要な項目を入れる工夫をするなど、羅列・断片的な知識ではなく、全体像を意識してまとめる。</p> <p>・問題演習では、解答や解法だけを確認するのではなく、問題や図に戻って俯瞰する。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	現代社会 (政経分野)	1年普通科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科との関連を図りながら、経済の仕組みを学ぶことで、現代の経済活動における社会的責任について考えさせる。 ・現代社会における諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：高等学校 新現代社会 改訂版 (清水書院) ・資料集：新政治・経済資料 2011 (実教出版) ・問題集：「道」2011 (岩手県高等学校教育研究会 公民部会) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1.</p> <p>(1)経済のしくみと経済循環</p> <p>(2)市場機構と独占・寡占</p> <p>(3)二つの経済体制 (資本主義・社会主義)</p> <p>(4)現代の企業</p> <p>【前期末】</p> <p>(5)金融の役割と金融政策</p> <p>(6)政府の経済的役割(財政政策)</p> <p>(7)租税・国債</p> <p>(8)国富・国民所得</p> <p>【後期中間】</p> <p>(9)経済成長・景気変動</p> <p>(10)戦後日本経済の発展① (特需～石油危機)</p> <p>(11)日本経済の発展② (バブル～現在)</p> <p>(12)雇用・労働問題</p> <p>【学年末】</p> <p>(13)社会保障制度</p> <p>(14)外国為替・国際通貨制度</p> <p>(15)貿易・国際収支</p> <p>(16)地域的経済統合</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の変容と現代経済の仕組みを正しく理解し、経済の諸課題に対する解決策について考えることができる。 ・企業の分類とそれぞれの特徴を理解したうえで社会における企業の社会的責任について考察できる。 ・資金の循環と金融機関の働きに加え、財政の仕組みと働き、租税の意義と役割について正しく理解することができる。 ・我が国の戦後経済と国民生活の変化、現代経済の現状と諸課題について理解できる。 ・経済活動の在り方と福祉の向上との関連について考察することができる。 ・日本経済の国際化及び世界経済の動向について理解する。 ・貿易の意義と国際収支の現状、仕組みを学ぶことで、国際経済における国際協調の必要性和日本の役割について考察できる。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査得点 ・提出物(ノート、課題レポート等) ・出席、授業への取り組み状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリントを用いながら、専門用語を確実に覚え、かつ資料集を十分に活用して、詳細な内容の理解に努めること。暗記のみでは受験に対応できない。 なお、ノートのメモ欄には、各自で必要と思われる説明や解説図などを適宜書き込むこと。 ・問題集「道」や授業中の問題演習を通じて学習内容の定着に努め、試験への対応力を身につけること。 ・日頃から新聞・ニュースに目を通すことを心がけ、時事問題についての知識を得ておくこと。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	現代社会(倫理)	1年普通科 2単位	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 「倫理」についての理解力・思考力・読解力の養成、並びに基礎的知識の定着。 「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題の探求と、生徒自身の世界観・人間観の形成。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書 高等学校 新現代社会 改訂版 (清水書院) 資料集 詳解 倫理資料 新訂版 (実教出版) 問題集 「道」 (岩手県高等学校教育研究会公民部会) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 人生における哲学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然哲学 ・ソクラテス ・プラトン ・アリストテレス ・ヘレニズム思想 <p>【前期末】</p> <p>2 人生における宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ教 ・イエスの思想 ・バラモン教 ・仏教 <p>【後期中間】</p> <p>3 人生の知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孔子と儒家の思想 ・儒教の展開 ・道家の思想 <p>【学年末】</p> <p>4 日本の風土と外来思想の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の移入 ・仏教の土着化 		<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシャ人によって形成された哲学と、その根底にある理性主義の本質について理解することができる。 ・ソクラテス、プラトン、アリストテレスの3大哲学者の思想内容を理解することができる。 ・ギリシャ思想の特色を理性の尊重、調和と秩序を中心に理解し、現代社会に与えた影響について考察することができる。 ・キリスト教がユダヤ教の中から生まれてくることを、当時の諸国家や諸民族の歴史的背景を踏まえて考え、理解することができる。 ・世界宗教としてのキリスト教について、その特色を理解することができる。 ・ブッダの思想から仏教のその後の展開について理解することができる。 ・思想の源流としての古代中国における諸子百家について、その思想内容を、それぞれの出現の歴史的・社会的背景とともに理解することができる。 ・聖徳太子の「和」の精神と、その背景にある仏教信仰にもとづく太子の人間観を考察することができる。 ・仏教の受容と変遷について、鎮護国家思想・密教・末法思想などを中心に理解することができる。 ・鎌倉時代における新しい仏教宗派の出現とその教えについて理解することができる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・定期考査 ・提出物(課題レポート・ノート等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、毎時間配られる授業プリント(穴埋め形式)を中心に展開し、重要語句やポイントを捉える。 ・ノートは板書内容をうつすのではなく、家庭学習等で自分なりに授業内容をまとめ、考査前に提出する。 ・読解力を養成するために、資料集の通読を徹底する。 ・年末に読書課題を計画している。指定された課題図書から一冊選び、2000字程度で内容を要約する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	政治・経済	3年普通科・文系(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。 ・現代社会における諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：高等学校 改訂版 政治・経済 (第一学習社) ・資料集：新政治・経済資料 (実教出版) ・用語集：政治・経済 最新第4版 (清水書院) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1. 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>(1) 民主政治の発達と原理</p> <p>(2) 議会制民主主義と政治の本質</p> <p>(3) 日本国憲法の基本原則</p> <p>(4) 基本的人権の保障と新しい人権</p> <p>【前期末】</p> <p>(5) 日本の政治制度 国会・内閣・裁判所</p> <p>(6) 地方自治と住民の権利</p> <p>2. 現代の国際政治と日本</p> <p>(1) 国際政治の動向</p> <p>【後期中間】</p> <p>(2) 冷戦時代の国際政治</p> <p>(3) 安全保障と日本の防衛</p> <p>3. 国際経済と日本</p> <p>(1) 為替・国際通貨制度</p> <p>(2) 貿易と国際収支</p> <p>(3) 社会保障と労働問題</p> <p>【学年末】</p> <p>マーク問題演習(センター試験対策)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・議会制民主主義の本質を学ぶことでそれらを尊重し擁護する意義を理解する。 ・日本国憲法に基づく、基本的人権の尊重と日本の政治制度全般について、基本的知識を身に付ける。 ・議会制民主主義について、単なる知識として覚えるのではなく、地方自治等の場で実践できる能力として総合的に身に付ける。 ・国際政治の動向や国際連合をはじめとする国際機構の役割と諸活動を理解できる。 ・国際紛争の諸要因、望ましい解決策について考察できるとともに、我が国の安全保障の問題について理解し、国際平和に寄与する日本の役割を理解する。 ・現代の日本経済の国際化及び世界経済の動向について理解する。 経済生活の変化、現代経済の機能について理解できる。 ・演習を通じて、大学入試センター受験に必要な知識を身につける。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査得点 ・提出物(ノート、課題レポート等) ・出席、授業への取り組み状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリントを活用して専門用語を確実に身につけること。なお、適宜配布される補充プリントも含め、ファイルするなどの整理を怠らないこと。 ・詳細な内容は資料集を、最新のデータや時事的な内容などは教科書を用いて学習し、理解に努めること。 ・単元終了ごとにマーク問題の演習を行うことにより学習内容を確実に身につけること。 ・授業に加え、課外等のあらゆる機会をとらえて、1年次に学んだ経済分野の復習を怠らないこと。 ・日頃から意識して新聞・ニュースに目を通すことで時事問題や小論文、面接に備えること。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	倫理	3年普通科・文系 2単位	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 「倫理」についての理解力・思考力・読解力の養成、並びに基礎的知識の定着。 「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題の探求と、生徒自身の世界観・人間観の形成。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書 高等学校 新倫理 改訂版 (清水書院) 資料集 詳解 倫理資料 (実教出版) 用語集 倫理 最新版 (清水書院) 問題集 4ステージ演習ノート (数研出版) 問題集 倫理10分間テスト (山川出版社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 青年期の課題と自己形成 現代社会を生きる倫理(西洋近現代思想) <ul style="list-style-type: none"> ルネサンスとヒューマニズム 宗教改革 帰納法、演繹法 社会契約説 <p>【前期末】</p> <ul style="list-style-type: none"> カント、ヘーゲル、ベンサム プラグマティズム 社会主義 キルケゴール、ヤスパース ニーチェ、ハイデッガー ガンディ、キング牧師等 <p>【後期中間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の風土と外来思想の受容 <ul style="list-style-type: none"> 江戸儒学 町人思想、農民思想 国学、心学 キリスト教の受容 近代日本哲学の成立 現代の諸課題と倫理 <ul style="list-style-type: none"> 生命倫理、環境倫理 情報社会 異文化理解 <p>【学年末】</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題演習 		<ul style="list-style-type: none"> 青年期の特徴を心理学的な定義などを通して知り、自分たちが置かれている状況を客観的に理解することができる。 現代社会のものの見方・考え方が近代の人間性尊重の精神にもとづいていることを理解し、その本質について、近代社会の成立を中心に考察することができる。 カントやヘーゲルなどの思想から、人間にとっての自由や幸福を、個人と全体との関わりを通して考察することができる。 19世紀のヨーロッパにおける社会状況を把握し、「人間疎外」の意味と実存主義の成立過程について理解することができる。 中国で生まれた儒教が外来思想として移入され、その後江戸時代に儒学として日本化されたことを理解することができる。 儒学が盛んであった近世において、そうした儒学を批判する形で国学が成立したという図式を理解することができる。 われわれが暮らしていく中で起こる様々な現代の諸問題について考察することができる。 過去問を中心に問題演習をすることで総復習をし、基礎的・応用的学力を身につけることができる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 定期考査 小テスト 提出物(課題・ノート等) 		<ul style="list-style-type: none"> 授業は、毎時間配られる授業プリント(穴埋め形式)を中心に展開し、重要語句やポイントを捉える。 ノートは板書内容をうつすのではなく、家庭学習等で自分なりに授業内容をまとめ、考査前に提出する。 授業の最初に、一問一答の小テストを行う。内容は問題集「倫理10分間テスト」から毎回8問出題。 「4ステージ演習ノート」を活用し、年内中に4度の演習課題を行う予定。 読解力を養成するために、教科書の通読を徹底する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ 数学Ⅱ	1年普通科(4・2・1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p>		教科書 数学Ⅰ・Ⅱ・A(数研出版) 参考書 フォーカスゴールド数学Ⅰ+A・Ⅱ+B(啓林館) 問題集 4STEP数学Ⅰ+A・Ⅱ+B(数研出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 《数学Ⅰ》 1章 方程式と不等式 2章 二次関数</p> <p>【前期末】 《数学Ⅰ》 3章 図形と計量 《数学Ⅱ》 1章 場合の数と確率</p> <p>【後期中間】 《数学Ⅱ》 2章 論理と集合 《数学Ⅱ》 1章 式と証明 2章 複素数と方程式</p> <p>【学年末】 《数学Ⅱ》 3章 平面図形 《数学Ⅱ》 3章 図形と方程式 4章 三角関数 5章 指数関数と対数関数</p>		<p>・数を実数まで拡大する意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。</p> <p>・二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。</p> <p>・直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができるようにする。</p> <p>・式と証明についての理解を深め、方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>・三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・出席、授業への取り組み状況</p> <p>・定期考査</p> <p>・4STEPテスト</p> <p>・提出物(4STEP、週末課題等)</p>		<p>・予習は授業を受けるところを読み、例、例題、問、練習等を必ず独力で解く。理解できるところと理解できないところをはっきりさせておく。</p> <p>・授業は高校生活の一番の柱です。教師にとっても生徒諸君にとっても授業こそ日々の真剣勝負の場です。予習をせずに授業に臨むことが決してないようにする。</p> <p>・復習として4STEPを解く。4STEPノートに解答し、毎週火曜日を金曜日に提出する。</p> <p>・試験が採点されて返却されたら、間違った問題をもう一度ノートに解きなおして提出すること。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	理数数学Ⅰ・理数数学Ⅱ	1年理数科(5・2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p>		教科書 数学Ⅰ・Ⅱ・A(数研出版) 参考書 フォーカスゴールド数学Ⅰ+A・Ⅱ+B(啓林館) 問題集 4STEP数学Ⅰ+A・Ⅱ+B(数研出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 《理数数学Ⅰ(数学Ⅰ)》 1章 方程式と不等式 2章 二次関数</p> <p>【前期末】 《理数数学Ⅰ(数学Ⅰ)》 3章 図形と計量 《理数数学Ⅰ(数学A)》 1章 場合の数と確率</p> <p>【後期中間】 《理数数学Ⅰ(数学A)》 2章 論理と集合 《理数数学Ⅱ(数学Ⅱ)》 1章 式と証明 2章 複素数と方程式</p> <p>【学年末】 《理数数学Ⅰ(数学A)》 3章 平面図形 《理数数学Ⅱ(数学Ⅱ)》 3章 図形と方程式 4章 三角関数 5章 指数関数と対数関数</p>		<p>・数を実数まで拡大する意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。</p> <p>・二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。</p> <p>・直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができるようにする。</p> <p>・式と証明についての理解を深め、方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>・三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・出席、授業への取り組み状況 ・定期考査 ・4STEPテスト ・提出物(4STEP、週末課題等)</p>		<p>・予習は授業を受けるところを読み、例、例題、問、練習等を必ず独力で解く。理解できるところと理解できないところをはっきりさせておく。</p> <p>・授業は高校生活の一番の柱です。教師にとっても生徒諸君にとっても授業こそ日々の真剣勝負の場です。予習をせずに授業に臨むことが決してないようにする。</p> <p>・復習として4STEPを解く。4STEPノートに解答し、毎週火曜日を金曜日に提出する。</p> <p>・試験が採点されて返却されたら、間違った問題をもう一度ノートに解きなおして提出すること。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	数学Ⅱ・数学B	2年普通科文系(4単位・2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>[数学Ⅱ]いろいろな関数および微分・積分の考え方について理解させ、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>[数学B]数列、ベクトルについて理解させ、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>		<p>教科書 数学Ⅱ・B(数研出版)</p> <p>問題集 4STEP数学Ⅱ+B(数研出版)</p> <p>分野別演習数学ⅡB(ベネッセ)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 数学Ⅱ 1) 微分法 2) 積分法</p> <p>【前期末】 数学B 1) 平面ベクトル 2) 空間ベクトル 3) 数列</p> <p>【後期中間】 数学Ⅱ・Bの復習(演習)</p> <p>【学年末】 数学Ⅱ・Bの復習(演習)</p>		<p>・具体的な事象の考察を通して微分積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。</p> <p>・ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・演習を通し、既習事項の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>・演習を通し、既習事項の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・単元テスト ・定期考査 ・提出物(週末課題等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業第一です。予習をせずに授業に臨むことが決していないようにして下さい。 ・復習として4STEPを解く。4STEPノートに解答し、週2回提出する。 ・試験が採点されて返却されたら、もう一度ノートに解きなおして提出すること。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	数学Ⅱ・数学B・ 数学Ⅲ	2年普通科理系(3単位・2単位・1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>いろいろな関数、数列、ベクトルおよび微分法・積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>		<p>教科書 数学Ⅱ・B・Ⅲ(数研出版)</p> <p>問題集 4STEP数学Ⅱ+B,Ⅲ+C(数研出版)</p> <p>分野別演習数学ⅡB(ベネッセ)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 数学Ⅱ 1) 微分法 2) 積分法</p> <p>【前期末】 数学B 1) 平面ベクトル 2) 空間ベクトル 3) 数列</p> <p>【後期中間】 数学Ⅲ 1) 関数 2) 極限 3) 微分法</p> <p>【学年末】 数学Ⅲ 1) 微分法の応用 2) 積分法とその応用</p>		<p>・具体的な事象の考察を通して微分積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。</p> <p>・ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。</p> <p>・いろいろな関数についての微分法を理解する。</p> <p>・微分法を用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・いろいろな関数についての積分法を理解し、その有用性を認識するとともに、図形の求積などに活用できるようにする。</p>	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・単元テスト ・定期考査 ・提出物(週末課題等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業第一です。予習をせずに授業に臨むことが決まらないようにして下さい。 ・復習として4STEPを解く。4STEPノートに解答し、週2回提出する。 ・試験が採点されて返却されたら、もう一度ノートに解きなおして提出すること。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	理数数学Ⅱ・理数数学探求	2年理数科(4単位・2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>いろいろな関数、数列、ベクトルおよび微分法・積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>		<p>教科書 数学Ⅱ・B・Ⅲ(数研出版)</p> <p>問題集 4STEP数学Ⅱ+B,Ⅲ+C(数研出版)</p> <p>分野別演習数学ⅡB(ベネッセ)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 理数数学Ⅱ 1) 微分法 2) 積分法</p> <p>【前期末】 理数数学探求 1) 平面ベクトル 2) 空間ベクトル 3) 数列</p> <p>【後期中間】 理数数学Ⅱ 1) 関数 2) 極限 3) 微分法</p> <p>【学年末】 理数数学Ⅱ 1) 微分法の応用 2) 積分法とその応用</p>		<p>・具体的な事象の考察を通して微分積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。</p> <p>・ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにする。</p> <p>・微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。</p> <p>・いろいろな関数についての微分法を理解する。</p> <p>・微分法を用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・いろいろな関数についての積分法を理解し、その有用性を認識するとともに、図形の求積などに活用できるようにする。</p>	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・単元テスト ・定期考査 ・提出物(週末課題等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業第一です。予習をせずに授業に臨むことが決していないようにして下さい。 ・復習として4STEPを解く。4STEPノートに解答し、週2回提出する。 ・試験が採点されて返却されたら、もう一度ノートに解きなおして提出すること。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	数学Ⅱ・数学B	3年普通科文系(3単位・2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
数学Ⅰ・数学Aの基本事項を確認した上で、数学Ⅱ・数学Bの図形と方程式、いろいろな関数、微分・積分、数列、ベクトル等の分野について発展的に学習し、その応用等について深く考察する。		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 改訂版 数学Ⅰ(数研出版) ・教科書 改訂版 数学A(数研出版) ・教科書 改訂版 数学Ⅱ(数研出版) ・教科書 改訂版 数学B(数研出版) ・副教材 クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B(数研出版) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 ・問題演習 (1) 数学ⅠA演習 (2) 数学ⅡB演習 【前期末】 ・問題演習 (1) 数学ⅠA演習 (2) 数学ⅡB演習 【後期中間】 ・問題演習 (1) 数学ⅠA演習 (2) 数学ⅡB演習 【学年末】 ・問題演習 (1) 数学ⅠA演習 (2) 数学ⅡB演習		<既習事項の確認及び理解> ・全科目における基本事項を理解できる。 ・基本的な定理、公式等を理解し活用できる。 ・教科書の例題レベルの問題を解くことができる。 ・ <既習事項を応用し、自分なりの視点で解決の糸口を探ることができる> ・各分野の内容を総合的、統一的に理解することができる。 ・数学的な見方や考え方を身につけて、自発的に活用できる。 ・教科書の節末問題、章末問題レベルの問題を解くことができる。 <既習事項を組み合わせ、問題解決のより良い方法を身につける> ・幅広く、数学的な活動を行うことができる。 ・学習した定理、公式、性質をより発展的に考察し、積極的に活用できる。 ・簡単な大学入試問題を解くことができる。 <論理的な視点を身につけ、問題解決の最善の方法を目指す> ・日常の事象を数学的に考察し、数学的な見方と考え方の良さを十分に認識できる。 ・各分野を関連づけて理解し、考察や計算などを通じて自分の言葉で表現できる。 ・標準的な大学入試問題を解くことができる。	
評価方法		学習の方法	
・定期考査 ・単元テスト(クリアーテスト) ・課題の提出状況 ・授業への取り組み状況		・教科書および1・2年次に使用した副教材(4STEP、フォーカスゴールド)等の復習を行いながら、問題集(クリアー)の演習を行う。クリアー問題集は、数学ⅠAⅡBの範囲を、1巡目は基本問題中心に、2巡目3巡目は応用問題を中心に3回繰り返して終わらせる。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	数学Ⅲ・数学C	3年普通科理系(4単位・4単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・行列とその応用、式と曲線、確率分布について理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p> <p>・進路実現にむけて、問題演習を行う。</p>		<p>・教科書 数学C(数研出版)</p> <p>・教科書 数学Ⅲ(数研出版)</p> <p>・問題集 クリアー数学演習ⅠAⅡB 受験編</p> <p>・問題集 クリアー数学演習ⅢC 受験編</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 数学C</p> <p>(1) 行列・1次変換</p> <p>(2) 式と曲線</p> <p>(3) 確率分布</p> <p>【前期末】</p> <p>2 問題演習</p> <p>(1) 数学ⅠAⅡB問題演習</p> <p>(2) 数学ⅢC問題演習</p> <p>【後期中間】</p> <p>3 問題演習</p> <p>(1) 数学ⅠAⅡB問題演習</p> <p>(2) 数学ⅢC問題演習</p> <p>【学年末】</p> <p>4 問題演習</p> <p>(1) 数学ⅠAⅡB問題演習</p> <p>(2) 数学ⅢC問題演習</p>		<p>・行列の性質を理解し、加減乗ができるようにする。</p> <p>・色々な行列が表す1次変換を学び、点の像、直線の像が求められるようにする。</p> <p>・二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・確率の計算及び確率変数とその分布についての理解を深め、不確定な事象を数学的に考察する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。</p> <p><既習事項を応用し、自分なりの視点で解決の糸口を探ることができる></p> <p>・各分野の内容を総合的、統一的に理解することができ、数学的な見方や考え方を身につけて、自発的に活用できる。</p> <p>・教科書の節末問題、章末問題レベルの問題を解くことができる。</p> <p><既習事項を組み合わせ、問題解決のより良い方法を身につける></p> <p>・幅広く、数学的な活動を行うことができる。</p> <p>・学習した定理、公式、性質をより発展的に考察し、積極的に活用できる。</p> <p>・簡単な大学入試問題を解くことができる。</p> <p><論理的な視点を身につけ、問題解決の最善の方法を目指す></p> <p>・日常の事象を数学的に考察し、数学的な見方と考え方の良さを十分に認識できる。</p> <p>・各分野を関連づけて理解し、考察や計算などを通じて自分の言葉で表現できる。</p> <p>・標準的な大学入試問題を解くことができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査</p> <p>・単元テスト(クリアーテスト)</p> <p>・課題の提出状況</p> <p>・授業への取り組み状況</p>		<p>・教科書および1・2年次に使用した副教材(4STEP、フォーカスゴールド)等の復習を行いながら、問題集(クリアー)の演習を行う。クリアー問題集は、数学ⅠAⅡBの範囲を、1巡目は基本問題中心に、2巡目は応用問題を中心に2回繰り返す。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
数学	理数数学Ⅱ・理数数学探究	3年理数科(5単位・4単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・行列とその応用、式と曲線、確率分布について理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p> <p>・進路実現にむけて、問題演習を行う。</p>		<p>・教科書 数学C(数研出版)</p> <p>・教科書 数学Ⅲ(数研出版)</p> <p>・問題集 クリアー数学演習ⅠAⅡB 受験編</p> <p>・問題集 クリアー数学演習ⅢC 受験編</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 数学C</p> <p>(1) 行列・1次変換</p> <p>(2) 式と曲線</p> <p>(3) 確率分布</p> <p>【前期末】</p> <p>2 問題演習</p> <p>(1) 数学ⅠAⅡB問題演習</p> <p>(2) 数学ⅢC問題演習</p> <p>【後期中間】</p> <p>3 問題演習</p> <p>(1) 数学ⅠAⅡB問題演習</p> <p>(2) 数学ⅢC問題演習</p> <p>【学年末】</p> <p>4 問題演習</p> <p>(1) 数学ⅠAⅡB問題演習</p> <p>(2) 数学ⅢC問題演習</p>		<p>・行列の性質を理解し、加減乗ができるようにする。</p> <p>・色々な行列が表す1次変換を学び、点の像、直線の像が求められるようにする。</p> <p>・二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・確率の計算及び確率変数とその分布についての理解を深め、不確定な事象を数学的に考察する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。</p> <p><既習事項を応用し、自分なりの視点で解決の糸口を探ることができる></p> <p>・各分野の内容を総合的、統一的に理解することができ、数学的な見方や考え方を身につけて、自発的に活用できる。</p> <p>・教科書の節末問題、章末問題レベルの問題を解くことができる。</p> <p><既習事項を組み合わせ、問題解決のより良い方法を身につける></p> <p>・幅広く、数学的な活動を行うことができる。</p> <p>・学習した定理、公式、性質をより発展的に考察し、積極的に活用できる。</p> <p>・簡単な大学入試問題を解くことができる。</p> <p><論理的な視点を身につけ、問題解決の最善の方法を目指す></p> <p>・日常の事象を数学的に考察し、数学的な見方と考え方の良さを十分に認識できる。</p> <p>・各分野を関連づけて理解し、考察や計算などを通じて自分の言葉で表現できる。</p> <p>・標準的な大学入試問題を解くことができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査</p> <p>・単元テスト(クリアーテスト)</p> <p>・課題の提出状況</p> <p>・授業への取り組み状況</p>		<p>・教科書および1・2年次に使用した副教材(4STEP、フォーカスゴールド)等の復習を行いながら、問題集(クリアー)の演習を行う。クリアー問題集は、数学ⅠAⅡBの範囲を、1巡目は基本問題中心に、2巡目は応用問題を中心に2回繰り返す。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	理科総合A(物理分野)	1年普通科・理数科(3単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>1 物理の基礎となる事象・現象についての演示実験や生徒実験を通して観察・実験を行い、自然に対する関心や探究心を高める。</p> <p>2 さらに基本的な概念や原理・法則の組み合わせでより複雑な現象を分析できる力を育成する。</p>		<p>・教科書 理科総合A改訂版 ～物質とエネルギー～(啓林館)</p> <p>・問題集 理科総合資料集 改訂 物理分野の発展学習 第2・3部 (啓林館)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間(5-7組)/後期中間(1-4組)】</p> <p>第2部 エネルギー・資源と人間生活</p> <p>第1章 力学的エネルギー</p> <p>第1節 運動と力</p> <p>A 速さと速度, 速度の合成, 相対速度 加速度</p> <p>B 自由落下, 鉛直投射, 水平投射, 斜方投射</p> <p>C 力</p> <p>D 力の合成と力のつりあい</p> <p>E 作用・反作用の法則</p> <p>F 摩擦力</p> <p>G 慣性の法則, 運動の法則</p>		<p>a 変位や速度など, 運動の表し方を理解する。</p> <p>b 等加速度運動において, 「時間と変位」「時間と速度」の関係を理解する。</p> <p>c 空気抵抗がなければ, 質量や体積によらず一様に自由落下運動することを理解する。</p> <p>d 自由落下運動や鉛直投げ上げ運動の「時間」「速度」「位置」の関係式を理解する。</p> <p>e 力とは何か理解する。</p> <p>f 力の合成, 分解, つりあいなど, 力の性質を理解する。</p> <p>g 2次元における力の合成, 分解, つりあいなど, 力の性質を理解する。</p> <p>h 作用反作用の性質を理解する。</p> <p>i 摩擦力について理解する。</p> <p>j 慣性の法則を理解する。</p> <p>k 力と加速度の関係を理解し, 運動の法則を理解する。</p>	
<p>【前期末(5-7組)/学年末(1-4組)】</p> <p>第2節 仕事とエネルギー</p> <p>A 仕事</p> <p>B 仕事の原理</p> <p>C 仕事率</p> <p>D 運動エネルギー</p> <p>E 位置エネルギー</p> <p>F 力学的エネルギー保存の法則</p> <p>G エネルギーが保存されない場合</p>		<p>a エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。</p> <p>b 運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し, 一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存されることを理解する。</p> <p>c 運動エネルギーの求め方を運動方程式から求められることを理解する。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>(1) 授業への取り組み状況</p> <p>(2) 定期考査の得点</p> <p>(3) 提出物(課題, 実験レポート)</p> <p>(4) 小テスト等の得点</p>		<p>(1) 物理用語の定義や意味をしっかりとつかみ, 理解すること。</p> <p>(2) 「法則」は暗記でなく, その意味する内容を数量的関係も踏まえてしっかりと理解すること。 例 運動の法則, エネルギー保存則</p> <p>(3) 公式は, ただ暗記するのではなく, 実際の現象に合わせて使いこなせるようにすること。また, 特に力や加速度については, ベクトルで表す意味が十分に理解できるよう取り組むこと。 例 $F = ma$; $F_0 = \mu N$</p> <p>(4) 課題等を通して, 多くの問題に触れたうえで, 法則や公式の意味をより深く理解すること。</p> <p>(5) 実験・実習や身の回りの現象と結び付けて理解すること。</p>	

教科名	科目名	開講期 / (単位数)	必修選択の別
理科	理科総合A (化学分野)	1年 普通・理数科 / (3単位)	必修
科目の到達目標 (ねらい)		使用教科書・教材	
<p>▶ すべての物質は原子、分子、イオンからなり、それらの集合の仕方 (化学結合) の違いが、物質のもつ様々な性質に深く関連していることを理解する。</p> <p>▶ 上記の物質観に基づき、化学的な視点から自然現象を探求しようとする態度を身につけるとともに、地球環境を尊重しようとする意識を育む。</p>		<p>□ 高等学校 理科総合A 改訂版 (啓林館)</p> <p>□ ニューステージ 新訂化学図表 (浜島書店)</p> <p>□ 問題集付き 理科総合資料集 (啓林館)</p>	
学習内容 (学習時期)		学習到達目標 (ねらい)	
【前期中間(1~4組) / 後期中間(5~7組)】			
<p>① 物質の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物質の構成 ● 物質の構成粒子とその結びつき <p>② 物質の量</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 原子量、分子量、式量 ● 物質質量 		<p>◇ 物質の分類ができ、分離方法が分かる。</p> <p>◇ 元素記号および周期表の概略が正しく書ける。</p> <p>◇ 物質の構成粒子 (原子、分子、イオン) を理解する。</p> <p>◇ 電子の「存在確率」のイメージが分かる。</p> <p>◇ 化学結合を理解し、物質を化学式で表現できる。</p> <p>◇ 化学結合と物質がもつ性質との関連性が理解できる。</p> <p>◇ 相対質量について理解する。</p> <p>◇ モルの概念を理解し、物質を量的にとらえることができる。</p>	
【前期末(5~7組) / 学年末(1~4組)】			
<p>② 物質の量 (続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物質質量 ● 化学変化とその量的関係 <p>③ 物質の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 変化のとらえ方 		<p>◇ 結晶格子の計算も含め、様々なモル計算ができる。</p> <p>◇ 化学変化を反応式で記述することができる。</p> <p>◇ 反応の量的関係を理解し、化学変化にともなうモル計算ができる。</p> <p>◇ いくつかの化学変化について、反応前後の物質の状態に着目することにより、反応の起こるしくみをきちんと考察できる。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>▶ 定期考査の得点</p> <p>▶ 各種評価テスト (小テスト) の得点</p> <p>▶ 各種課題や実験レポート等の提出状況</p> <p>▶ 授業や実験に対する取組みの状況</p> <p>▶ 出席の状況</p> <p>▶ その他参考となる事柄</p> <p>㊟ 将来の大学受験等を考慮して、授業内容と関連付けた問題演習を適宜実施し、その内容は定期考査にも反映させる。</p>		<p>▶ その存在を目では直接見ることのできないミクロの粒子 (原子、分子、イオン) について、『理論的な想像力』をはたらかせること。</p> <p>▶ そのためには、常に<What><Why><How>を意識し、分析的に現象を理解しようとする思考力と、その思考力を支える確乎たる知識力を、車の両輪のように不可分のものとして身につけていく努力を怠らないこと。</p> <p>▶ 特に、「読み」「書き」「そろばん」に相当する基礎的事項は、<u>完全習得を目指すこと。</u></p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	物理 I	2年普通科理系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
物理的な事象・現象についての観察や実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		教科書 改訂版 高等学校 物理 I (数研出版)	
		問題集 三訂版 リードα 物理 I・II (数研出版)	
		物理のエッセンス 力学・波動 電磁気・熱・原子 (河合出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 第1章 運動の表し方 直線運動の速度、直線運動の加速度 落体の運動 第2章 運動の法則 いろいろな力、力のつりあい、運動の法則 摩擦や空気の抵抗を受ける運動 剛体にはたらく力のつりあい 第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 第4章 熱とエネルギー 熱と温度、熱と仕事 エネルギーの変換と保存 【前期末】 第2編 波 第1章 波の性質 波の伝わり方と種類 重ね合わせの原理と波の干渉 波の反射・屈折・回折 第2章 音 音波の伝わり方 【後期中間】 発音体の振動と共鳴・共振 音のドップラー効果 第3章 光 光の性質、光の進み方、レンズ 【学年末】 光の干渉と回折 第3編 電気 第1章 静電気と電流 静電気、電流、電気とエネルギー 放電 第2章 電流と磁場 磁石と電流がつくる磁場 モーターと発電機		<ul style="list-style-type: none"> ・速度、相対速度、加速度を活用できる。 ・等加速度直線運動の三公式にはじまり、落体の運動が理解できる。 ・力の種類と力のつりあい、ニュートンの三法則摩擦力が理解できる。 ・力のモーメント、剛体のつりあい条件、重心が理解できる。 ・仕事と力学的エネルギーの関係、力学的エネルギー保存則が理解できる。 ・比熱、熱容量、気体の法則、熱力学の第一法則を理解できる。 ・波の種類とその性質について理解できる。 ・波の反射、屈折、回折が理解できる。 ・音、共鳴、共振について理解できる。 ・ドップラー効果が理解できる。 ・光の種類、偏光、反射、屈折、散乱、分散について理解できる。 ・凹凸レンズの性質と写像公式が理解できる。 ・光の干渉や回折が理解できる。 ・静電気、電場、電気力線について理解できる。 ・オームの法則、電流計電圧計について理解できる。 ・右ねじの法則、フレミングの左手の法則を活用できる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み状況 ・定期考査 ・提出物(課題、実験レポート等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・物理は、問題の状況をしっかり理解することから始まる。ベクトル図の習慣化・グラフの縦軸と横軸になっている量を必ず書く。これが物理の授業や問題演習に臨む時の基本的姿勢である。 ・リードαやエッセンス、定期考査の問題を何度も解きなめ習慣をつけよう。 ・積極的な質問を期待します。「攻め」ながら理解しろ。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理数	理数物理	2年理数科(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
物理的な事象・現象についての観察や実験を行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		教科書 改訂版 高等学校 物理 I (数研出版) 問題集 三訂版 リードα 物理 I・II (数研出版) 物理のエッセンス 力学・波動 電磁気・熱・原子 (河合出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 第1章 運動の表し方 直線運動の速度、直線運動の加速度 落体の運動 第2章 運動の法則 いろいろな力、力のつりあい、運動の法則 摩擦や空気の抵抗を受ける運動 剛体にはたらく力のつりあい 第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事、運動エネルギー、位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 第4章 熱とエネルギー 熱と温度、熱と仕事 エネルギーの変換と保存 【前期末】 第2編 波 第1章 波の性質 波の伝わり方と種類 重ね合わせの原理と波の干渉 波の反射・屈折・回折 第2章 音 音波の伝わり方 【後期中間】 発音体の振動と共鳴・共振 音のドップラー効果 第3章 光 光の性質、光の進み方、レンズ 【学年末】 光の干渉と回折 第3編 電気 第1章 静電気と電流 静電気、電流、電気とエネルギー 放電 第2章 電流と磁場 磁石と電流がつくる磁場 モーターと発電機		<ul style="list-style-type: none"> 速度、相対速度、加速度を活用できる。 等加速度直線運動の三公式にはじまり、落体の運動が理解できる。 力の種類と力のつりあい、ニュートンの三法則摩擦力が理解できる。 力のモーメント、剛体のつりあい条件、重心が理解できる。 仕事と力学的エネルギーの関係、力学的エネルギー保存則が理解できる。 比熱、熱容量、気体の法則、熱力学の第一法則を理解できる。 波の種類とその性質について理解できる。 波の反射、屈折、回折が理解できる。 音、共鳴、共振について理解できる。 ドップラー効果が理解できる。 光の種類、偏光、反射、屈折、散乱、分散について理解できる。 凹凸レンズの性質と写像公式が理解できる。 光の干渉や回折が理解できる。 静電気、電場、電気力線について理解できる。 オームの法則、電流計電圧計について理解できる。 右ねじの法則、フレミングの左手の法則を活用できる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み状況 定期考査 提出物(課題、実験レポート等) 		<ul style="list-style-type: none"> 物理は、問題の状況をしっかり理解することから始まる。ベクトル図の習慣化・グラフの縦軸と横軸になっている量を必ず書く。これが物理の授業や問題演習に臨む時の基本的姿勢である。 リードαやエッセンス、定期考査の問題を何度も解きなめ習慣をつけよう。 積極的な質問を期待します。「攻め」ながら理解しろ。これにより、課題研究力も鍛えられます。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	物理Ⅱ	3年普通科理系(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
物理的な事象・現象についての観察や実験を行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		教科書 改訂版 高等学校 物理Ⅱ(数研出版) 問題集 三訂版 リードα 物理Ⅰ・Ⅱ(数研出版) 物理のエッセンス 力学・波動 電磁気・熱・原子(河合出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 第1編 力と運動 第2章 運動量の保存 反発係数 第3章 円運動と万有引力 等速円運動、慣性力、単振動、 万有引力 第2編 電気と磁気 第1章 電場 静電気力、電場、電位、 電場の中の物体、コンデンサー		<ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式から「運動量の変化量が力積に等しい」ことが導かれることを理解させる。 ・2物体の一直線上の衝突・合体・分裂について、運動量保存則が成り立つことを説明する。 ・等速円運動の様子は、半径・速度・角速度・回転数、周期などを用いて表されることを示す。 ・観測する立場によっては、運動の法則が成立する場合と不成立の場合があることを認識させる。 ・単振動する物体には、常に振動の中心に向き、大きさが距離に比例する力がはたらくことを示す。 ・物理Ⅰの復習のみならず、法則を定式化する。 	
【前期末】 第2章 電流 オームの法則、直流回路 第3章 電流と磁場 磁場、電流のつくる磁場、 電流が磁場から受ける力、 ローレンツ力 第3編 物質と原子 第1章 熱と物質の状態 物質の状態、 気体の法則と気体分子の運動、 気体の内部エネルギーと比熱 第2章 原子、電子と物質の性質 電子、電子波と原子の構造、 固体の性質と電子		<ul style="list-style-type: none"> ・物理Ⅰの復習のみならず、より抽象的な概念まで拡張して説明する。 ・キルヒホッフの法則の使い方を、水流モデルとの対比によって理解させる。 ・電流が磁場から受ける力の向き・大きさを理解させる。 ・電流が磁場から受ける力をミクロ的に考えることを通して、運動する荷電粒子が磁場から受ける力を理解させる。 ・ボイル・シャルルの法則、状態方程式を理想気体の問題で扱えるようにする。 ・熱力学第一法則の内容は、エネルギー保存則であることを理解させる。 ・熱力学第一法則を用いて、気体の定積変化・等圧変化・等温変化・断熱変化を説明できるようにする。 ・光電効果の特徴(光の振動数と運動エネルギーとの関係、光の強さと光電子の数との関係)を理解させる。 	
【学年末】 第2編 電気と磁気 第4章 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則、交流の発生、 インダクタンス、交流回路、電磁波		<ul style="list-style-type: none"> ・電磁誘導についての理解を深める。 ・電磁誘導の例として、導線が磁束を横切るときの扱いから、交流の発生の仕方を考えさせる。 ・電磁誘導に起因する自己誘導や相互誘導について理解させ、それが応用されている様々な交流回路についての理解を深めさせる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の得点 ・提出物(課題、添削、実験レポート) ・授業に対する取り組み ・小テスト等の得点 		<ul style="list-style-type: none"> ・物理的な思考力とイメージ力を対応させて理解できるようにすることを重視する。 ・基本的な概念を押さえながら学習する。 ・復習に重点を置き、物理を身につけていく姿勢をつくる。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	理数物理	3年理数科(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
物理的な事象・現象についての観察や実験を行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		教科書 改訂版 高等学校 物理Ⅱ(数研出版) 問題集 三訂版 リードα 物理Ⅰ・Ⅱ(数研出版) 物理のエッセンス 力学・波動 電磁気・熱・原子(河合出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 第1編 力と運動 第2章 運動量の保存 反発係数 第3章 円運動と万有引力 等速円運動、慣性力、単振動、 万有引力 第2編 電気と磁気 第1章 電場 静電気力、電場、電位、 電場の中の物体、コンデンサー		<ul style="list-style-type: none"> ・運動方程式から「運動量の変化量が力積に等しい」ことが導かれることを理解させる。 ・2物体の一直線上の衝突・合体・分裂について、運動量保存則が成り立つことを説明する。 ・等速円運動の様子は、半径・速度・角速度・回転数、周期などを用いて表されることを示す。 ・観測する立場によっては、運動の法則が成立する場合と不成立の場合があることを認識させる。 ・単振動する物体には、常に振動の中心に向き、大きさが距離に比例する力がはたらくことを示す。 ・物理Ⅰの復習のみならず、法則を定式化する。 	
【前期末】 第2章 電流 オームの法則、直流回路 第3章 電流と磁場 磁場、電流のつくる磁場、 電流が磁場から受ける力、 ローレンツ力 第3編 物質と原子 第1章 熱と物質の状態 物質の状態、 気体の法則と気体分子の運動、 気体の内部エネルギーと比熱 第2章 原子、電子と物質の性質 電子、電子波と原子の構造、 固体の性質と電子		<ul style="list-style-type: none"> ・物理Ⅰの復習のみならず、より抽象的な概念まで拡張して説明する。 ・キルヒホッフの法則の使い方を、水流モデルとの対比によって理解させる。 ・電流が磁場から受ける力の向き・大きさを理解させる。 ・電流が磁場から受ける力をミクロ的に考えることを通して、運動する荷電粒子が磁場から受ける力を理解させる。 ・ボイル・シャルルの法則、状態方程式を理想気体の問題で扱えるようにする。 ・熱力学第一法則の内容は、エネルギー保存則であることを理解させる。 ・熱力学第一法則を用いて、気体の定積変化・等圧変化・等温変化・断熱変化を説明できるようにする。 ・光電効果の特徴(光の振動数と運動エネルギーとの関係、光の強さと光電子の数との関係)を理解させる。 	
【学年末】 第2編 電気と磁気 第4章 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則、交流の発生、 インダクタンス、交流回路、電磁波		<ul style="list-style-type: none"> ・電磁誘導についての理解を深める。 ・電磁誘導の例として、導線が磁束を横切るときの扱いから、交流の発生の仕方を考えさせる。 ・電磁誘導に起因する自己誘導や相互誘導について理解させ、それが応用されている様々な交流回路についての理解を深めさせる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の得点 ・提出物(課題、添削、実験レポート) ・授業に対する取り組み ・小テスト等の得点 		<ul style="list-style-type: none"> ・物理的な思考力とイメージ力を対応させて理解できるようにすることを重視する。 ・基本的な概念を押さえながら学習する。 ・復習に重点を置き、物理を身につけていく姿勢をつくる。 	

教科名	科目名	開講期 / (単位数)	必修選択の別
理科	化学 I	2年 普通科理系 / (3単位)	必修
科目の到達目標 (ねらい)		使用教科書・教材	
▶ 化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		<input type="checkbox"/> 高等学校 化学 I 改訂版 (啓林館) <input type="checkbox"/> ニューステージ 新訂化学図表 (浜島書店) <input type="checkbox"/> 新訂アクセス化学 I・II (浜島書店)	
学習内容 (学習時期)		学習到達目標 (ねらい)	
【前期中間】 1 化学反応と熱 ・反応熱と熱化学方程式 ・ヘスの法則 ・結合エネルギー 2 酸・塩基 ・酸と塩基 ・水の電離と pH ・酸・塩基の中和 3 酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤		◇化学変化に伴うエネルギーの出入りを理解する。 ◇反応熱の定義を理解し、「ヘスの法則」を用いて反応熱の計算ができる。 ◇酸・塩基の定義および性質、電離度、水素イオン濃度と pH、滴定曲線等について理解する。 ◇中和反応の量的計算ができる。 ◇酸化還元反応の定義、酸化数の考え方について理解する。 ◇酸化剤と還元剤の働きを理解し、酸化還元反応式が書ける。	
【前期末】 3 酸化還元反応 (続き) ・酸化還元滴定 ・金属の酸化還元反応 ・電池と電気分解		◇酸化還元反応の量的計算ができる。 ◇金属のイオン化傾向とその意義を理解する。 ◇電池および電気分解の原理を理解し、ファラデーの法則を用いて量的計算ができる。	
【後期中間】 4 無機物質 ・周期表と元素の性質 ・非金属元素とその化合物 ・金属元素とその化合物		◇各族元素の単体および化合物の性質や製法を理解し、物質観を深める。 ◇酸化物の反応性の違いに着目し物質を分類できる。 ◇種々の化学反応式を正しく書くことができる。	
【学年末】 4 無機物質 (続き) ・金属イオンの反応 5 有機化合物 ・有機化合物の特徴と構造 ・元素分析 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む脂肪族化合物		◇陽イオンの系統分析を理解する。 ◇有機化合物の特徴を知り、構造や官能基による分類法や命名法を理解し、示性式や構造式が書ける。 ◇元素分析について理解し、構造決定ができる。 ◇種々の有機化合物の性質、製法、化合物間の反応等を広く理解し、化学反応式で表すことができる。	
評価の観点		学習の方法	
▶ 定期考査の得点 ▶ 評価テスト (小テスト) の得点 ▶ 課題や実験レポート等の提出状況 ▶ 授業や実験に対する取り組みの状況 ▶ 出席の状況 ▶ その他参考となる事項		▶ 授業に集中し、疑問点はそのままにせず必ず質問をして解決するようにすること。 ▶ 暗記事項は、教科書や図表を繰り返し見て、単元毎に必ず覚えるようにすること。 ▶ 基本問題の繰り返しの演習と応用問題への果敢な挑戦で単元毎に理解力を完成させていくこと。	

教科名	科目名	開講期 / (単位数)	必修選択の別
理数	理数化学	2年 理数科 / (3単位)	必修
科目の到達目標 (ねらい)		使用教科書・教材	
▶ 化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		<input type="checkbox"/> 高等学校 化学 I 改訂版 (啓林館) <input type="checkbox"/> ニューステージ 新訂化学図表 (浜島書店) <input type="checkbox"/> 新訂アクセス化学 I・II (浜島書店)	
学習内容 (学習時期)		学習到達目標 (ねらい)	
【前期中間】 ① 化学反応と熱 ● 反応熱と熱化学方程式 ● ヘスの法則 ● 結合エネルギー ② 酸・塩基 ● 酸と塩基 ● 水の電離と pH ● 酸・塩基の中和 ③ 酸化還元反応 ● 酸化と還元 ● 酸化剤と還元剤		◇ 化学変化に伴うエネルギーの出入りを理解する。 ◇ 反応熱の定義を理解し、「ヘスの法則」を用いて反応熱の計算ができる。 ◇ 酸・塩基の定義および性質、電離度、水素イオン濃度と pH、滴定曲線等について理解する。 ◇ 中和反応の量的計算ができる。 ◇ 酸化還元反応の定義、酸化数の考え方について理解する。 ◇ 酸化剤と還元剤の働きを理解し、半反応式が書ける。	
【前期末】 ③ 酸化還元反応 (続き) ● 酸化還元滴定 ● 金属の酸化還元反応 ● 電池と電気分解		◇ 酸化還元反応の量的計算ができる。 ◇ 金属のイオン化傾向とその意義を理解する。 ◇ 電池および電気分解の原理を理解し、ファラデーの法則を用いて量的計算ができる。	
【後期中間】 ④ 無機物質 ● 周期表と元素の性質 ● 非金属元素とその化合物 ● 金属元素とその化合物		◇ 各族元素の単体および化合物の性質や製法を理解し、物質観を深める。 ◇ 酸化物の反応性の違いに着目し物質を分類できる。 ◇ 種々の化学反応式を正しく書くことができる。	
【学年末】 ④ 無機物質 (続き) ● 金属イオンの反応 ⑤ 有機化合物 ● 有機化合物の特徴と構造 ● 元素分析 ● 脂肪族炭化水素 ● 酸素を含む脂肪族化合物		◇ 陽イオンの系統分析を理解する。 ◇ 有機化合物の特徴を知り、構造や官能基による分類法や命名法を理解し、示性式や構造式が書ける。 ◇ 元素分析について理解し、構造決定ができる。 ◇ 種々の有機化合物の性質、製法、化合物間の反応等を広く理解し、化学反応式で表すことができる。	
評価の観点		学習の方法	
▶ 定期考査の得点 ▶ 評価テスト (小テスト) の得点 ▶ 課題や実験レポート等の提出状況 ▶ 授業や実験に対する取組みの状況 ▶ 出席の状況 ▶ その他参考となる事項		▶ 授業に集中し、疑問点はそのままにせず必ず質問をして解決するようにすること。 ▶ 暗記事項は、教科書や図表を繰り返し見て、単元毎に必ず覚えるようにすること。 ▶ 基本問題の繰り返しの演習と応用問題への果敢な挑戦で単元毎に理解力を完成させていくこと。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	化学Ⅱ	3年普通科理系(4単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>化学の学習を通し化学的なものの見方や考え方を身に付ける。また、実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。そして、化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 高等学校化学Ⅰ改訂版(啓林館) ・教科書 高等学校化学Ⅱ改訂版(啓林館) ・図表 スクエア最新図説化学(第一学習社) ・問題集 アクセス化学Ⅰ・Ⅱ(浜島書店) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 有機化合物 炭水素 酸素を含む脂肪族化合物 芳香族化合物 (化学Ⅰ終了)</p> <p>【前期末】 (これより化学Ⅱ) 物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質 反応速度 化学平衡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>9月末から始まる平常課外では習熟度別にクラス編成する。</p> </div> <p>【後期中間】 高分子化合物 分類と特徴・糖類とタンパク質 生活と物質 食品と衣料の化学・材料の化学 生命と物質</p> <p>【学年末】 二次試験対策(習熟度別) センター試験対策(習熟度別)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各化合物の化学式や反応式を書くことができ、性質について説明することができる。 【実験】アルコールの酸化、アルデヒドの検出 ・各有機化合物の相互の関連を理解し、その変化の過程を書き表すことができる ・有機化合物の混合物から、純物質を分離する操作を答えることができる。 【実験】ニトロベンゼン、アミン、ジアゾ化、カップリング ・物質の各状態とその性質を答えることができる。 ・大気圧・蒸気圧について、説明できる。 ・各気体の法則を説明でき、それぞれの公式を使って、計算をすることができる。 ・固体、気体の溶解度について、それぞれの変化を理解して、計算することができる。 ・希薄溶液の性質を説明することができる。 【実験】コロイド溶液 ・化学反応の仕組みを理解して、データから化学反応を解析することができる。 ・ルシャトリエの原理を説明することができ、平衡状態の反応における平衡定数を自在に扱うことができる。 ・各糖類の構造式を書くことができ、性質を答えることができる。 ・アミノ酸とタンパク質の性質を答えることができる。 ・食品成分の性質、各繊維の構造と性質を答えることができる。 ・プラスチックやゴムなどの構造と性質を答えることができる。 ・酵素による生体内における化学反応を答えることができる。 ・物質の分解と合成をエネルギー代謝と関連させて答えることができる。 ・薬品や肥料の合成と性質を答えることができる。 	
評価方法		学習の方法	
<p>考查点 課題提出状況 実験レポート 各種テスト 出席・授業や実験への取り組み状況</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の授業を大切にし、不明な箇所を残さないこと ・学習の予習は短時間で構わないので教科書を読んでおくこと。 ・自分で考えたことや説明されたことをノートにメモしておく、後に役立つだけでなく学習に広がりが生じる。 ・復習としては問題集を計画的に解いておくこと。必ず課題となるので自分の予定に合わせて解くこと。 ・課題は必ず提出すること。 ・課題でなくても、問題集は何回でも解くこと。(苦手分野は特に)これが力になる。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	理数化学	3年理数科(4単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>化学の学習を通し化学的なものの見方や考え方を身に付ける。また、実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。そして、化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 高等学校化学Ⅰ改訂版(啓林館) ・教科書 高等学校化学Ⅱ改訂版(啓林館) ・図表 スクエア最新図説化学(第一学習社) ・問題集 アクセス化学Ⅰ・Ⅱ(浜島書店) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 有機化合物 炭化水素 酸素を含む脂肪族化合物 芳香族化合物 (化学Ⅰ終了)</p> <p>【前期末】 (これより化学Ⅱ) 物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質 反応速度 化学平衡</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>9月末から始まる平常課外では習熟度別にクラス編成する。</p> </div> <p>【後期中間】 高分子化合物 分類と特徴・糖類とタンパク質 生活と物質 食品と衣料の化学・材料の化学 生命と物質</p> <p>【学年末】 二次試験対策(習熟度別) センター試験対策(習熟度別)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各化合物の化学式や反応式を書くことができ、性質について説明することができる。 【実験】アルコールの酸化、アルデヒドの検出 ・各有機化合物の相互の関連を理解し、その変化の過程を書き表すことができる ・有機化合物の混合物から、純物質を分離する操作を答えることができる。 【実験】ニトロベンゼン、アニリン、ジアゾ化、カップリング ・物質の各状態とその性質を答えることができる。 ・大気圧・蒸気圧について、説明できる。 ・各気体の法則を説明でき、それぞれの公式を使って、計算をすることができる。 ・固体、気体の溶解度について、それぞれの変化を理解して、計算することができる。 ・希薄溶液の性質を説明することができる。 【実験】コロイド溶液 ・化学反応の仕組みを理解して、データから化学反応を解析することができる。 ・ルシャトリエの原理を説明することができ、平衡状態の反応における平衡定数を自在に扱うことができる。 ・各糖類の構造式を書くことができ、性質を答えることができる。 ・アミノ酸とタンパク質の性質を答えることができる。 ・食品成分の性質、各繊維の構造と性質を答えることができる。 ・プラスチックやゴムなどの構造と性質を答えることができる。 ・酵素による生体内における化学反応を答えることができる。 ・物質の分解と合成をエネルギー代謝と関連させて答えることができる。 ・薬品や肥料の合成と性質を答えることができる。 	
評価方法		学習の方法	
<p>考查点 課題提出状況 実験レポート 各種テスト 出席・授業や実験への取り組み状況</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の授業を大切にし、不明な箇所を残さないこと ・学習の予習は短時間で構わないので教科書を読んでおくこと。 ・自分で考えたことや説明されたことをノートにメモしておく、後に役立つだけでなく学習に広がりが生じる。 ・復習としては問題集を計画的に解いておくこと。必ず課題となるので自分の予定に合わせて解くこと。 ・課題は必ず提出すること。 ・課題でなくても、問題集は何回でも解くこと。(苦手分野は特に)これが力になる。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	生物 I	2年普通科文系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>生物や生命現象に対する興味・関心を高め、基本的な概念や原理・原則の理解に基づく科学的自然観を養わせる。</p> <p>生物や生命現象についての観察、実験などを通して技能を習得させるとともに、その結果をもとに生物学的な探究活動ができる能力と態度を養う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 教科書 改訂版高等学校生物 I (数研出版) 副教材 スクエア最新図説生物 (第一学習社) 問題集 セミナー生物 I (第一学習社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第1章 細胞と個体の成り立ち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命の単位—細胞 2 細胞膜と物質の出入り 3 細胞のはたらきと酵素 4 細胞の分化と増殖 5 単細胞生物と多細胞生物 6 個体の成り立ち <p>【前期末】</p> <p>第2章 生殖と発生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生殖 2 生殖細胞の形成 3 動物と植物の生殖 4 動物の発生 5 動物の発生のしくみ <p>【後期中間】</p> <p>第3章 遺伝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 遺伝の法則 2 いろいろな遺伝 3 遺伝子と染色体 4 遺伝子の本体 <p>【学年末】</p> <p>第4章 刺激の受容と反応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 刺激の受容から反応まで 2 受容器と効果器 3 神経系 4 動物の行動 		<ul style="list-style-type: none"> 細胞が生物の基本単位であることを理解する。 細胞膜の性質と、浸透圧や能動輸送の意味を理解する。 生体内の化学反応には酵素が関わることを理解する。 体細胞分裂のしくみを理解する。 動物、植物細胞の構造の共通点、相違点を理解する。 生殖の方法、有性生殖の過程と意義を理解する。 ウニやカエルの発生過程をもとに、各時期の卵や胚の構造上の変化を学び取らせる。 フォークトとシュペーマンの実験をもとに、形成体の役割と誘導の連鎖について理解する。 メンデルの法則の内容とその意義について理解する。 いろいろな遺伝現象を理解する。 遺伝子の本体がDNAであると確定されるまでの流れを理解するとともに、DNAの二重らせん構造が決定されたしくみとその意義を理解する。 生物が刺激を受容して応答するまでのしくみ、経路を理解する。 膜電位と興奮のしくみについて理解する。 中枢(脳)の働きについて理解する。 具体例をもとに生得的行動、習得的行動を理解する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査・実力テスト 授業や実験への取り組み状況 実験レポート セミナーノート等の提出状況 		<ul style="list-style-type: none"> 予習は特に求めない。 授業に集中して取り組み、既習事項を教科書・問題集を使って復習する。 問題集を用いて知識の定着を図るとともに、考える力を養う。 以上の過程の中で理科的な考え方を学び、分からないことは意欲的に質問する態度を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	生物 I	2年普通科理系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>生物や生命現象に対する興味・関心を高め、基本的な概念や原理・原則の理解に基づく科学的自然観を養わせる。</p> <p>生物や生命現象についての観察、実験などを通して技能を習得させるとともに、その結果をもとに生物学的な探究活動ができる能力と態度を養う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 改訂版高等学校生物 I (数研出版) ・副教材 スクエア最新図説生物 (第一学習社) ・問題集 セミナー生物 I・II (第一学習社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第1章 細胞と個体の成り立ち</p> <p>1 生命の単位—細胞</p> <p>2 細胞膜と物質の出入り</p> <p>3 細胞のはたらきと酵素</p> <p>4 細胞の分化と増殖</p> <p>5 単細胞生物と多細胞生物</p> <p>6 個体の成り立ち</p> <p>【前期末】</p> <p>第2章 生殖と発生</p> <p>1 生殖</p> <p>2 生殖細胞の形成</p> <p>3 動物と植物の生殖</p> <p>4 動物の発生</p> <p>5 動物の発生のしくみ</p> <p>第3章 遺伝</p> <p>1 遺伝の法則</p> <p>【後期中間】</p> <p>2 いろいろな遺伝</p> <p>3 遺伝子と染色体</p> <p>4 遺伝子の本体</p> <p>第4章 刺激の受容と反応</p> <p>1 刺激の受容から反応まで</p> <p>2 受容器と効果器</p> <p>3 神経系</p> <p>【学年末】</p> <p>4 動物の行動</p> <p>第5章 内部環境の恒常性</p> <p>1 内部環境としての体液</p> <p>2 体液の恒常性</p> <p>3 自律神経とホルモンによる調節</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・細胞が生物の基本単位であることを理解する。 ・細胞膜の性質と、浸透圧や能動輸送の意味を理解する。 ・生体内の化学反応には酵素が関わることを理解する。 ・体細胞分裂のしくみを理解する。 ・動物、植物細胞の構造の共通点、相違点を理解する。 ・生殖の方法、有性生殖の過程と意義を理解する。 ・ウニやカエルの発生過程をもとに、各時期の卵や胚の構造上の変化を学び取らせる。 ・フォークトとシュペーマンの実験をもとに、形成体の役割と誘導の連鎖について理解する。 ・メンデルの法則の内容とその意義について理解する。 ・いろいろな遺伝現象を理解する。 ・遺伝子の本体がDNAであり、DNAの二重らせん構造が決定されるまでの流れを理解する。 ・生物が刺激を受容して応答するまでのしくみ、経路を理解する。 ・膜電位と興奮のしくみ、中枢(脳)の働きについて理解する。 ・具体例をもとに生得的行動、習得的行動を理解する。 ・内部環境の概念と、体液の組成と働きを理解する。 ・浸透圧調節を中心に恒常性維持の仕組みを理解する。 ・自律神経とホルモンによる恒常性維持の仕組みを理解する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・実力テスト ・授業や実験への取り組み状況 ・実験レポート ・セミナーノート等の提出状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・予習は特に求めない。 ・授業に集中して取り組み、既習事項を教科書を使って復習する。 ・問題集を用いて知識の定着を図るとともに、考える力を養う。 ・以上の過程の中で理科的な考え方を学び、分からないことは意欲的に質問する態度を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	理数生物	2年理数科(3単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>生物や生命現象に対する興味・関心を高め、基本的な概念や原理・原則の理解に基づく科学的自然観を養わせる。</p> <p>生物や生命現象についての観察、実験などを通して技能を習得させるとともに、その結果をもとに生物学的な探究活動ができる能力と態度を養う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 改訂版高等学校生物Ⅰ(数研出版) ・副教材 スクエア最新図説生物(第一学習社) ・問題集 セミナー生物Ⅰ・Ⅱ(第一学習社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第1章 細胞と個体の成り立ち</p> <p>1 生命の単位—細胞</p> <p>2 細胞膜と物質の出入り</p> <p>3 細胞のはたらきと酵素</p> <p>4 細胞の分化と増殖</p> <p>5 単細胞生物と多細胞生物</p> <p>6 個体の成り立ち</p> <p>【前期末】</p> <p>第2章 生殖と発生</p> <p>1 生殖</p> <p>2 生殖細胞の形成</p> <p>3 動物と植物の生殖</p> <p>4 動物の発生</p> <p>5 動物の発生のしくみ</p> <p>第3章 遺伝</p> <p>1 遺伝の法則</p> <p>【後期中間】</p> <p>2 いろいろな遺伝</p> <p>3 遺伝子と染色体</p> <p>4 遺伝子の本体</p> <p>第4章 刺激の受容と反応</p> <p>1 刺激の受容から反応まで</p> <p>2 受容器と効果器</p> <p>3 神経系</p> <p>【学年末】</p> <p>4 動物の行動</p> <p>第5章 内部環境の恒常性</p> <p>1 内部環境としての体液</p> <p>2 体液の恒常性</p> <p>3 自律神経とホルモンによる調節</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・細胞が生物の基本単位であることを理解する。 ・細胞膜の性質と、浸透圧や能動輸送の意味を理解する。 ・生体内の化学反応には酵素が関わることを理解する。 ・体細胞分裂のしくみを理解する。 ・動物、植物細胞の構造の共通点、相違点を理解する。 ・生殖の方法、有性生殖の過程と意義を理解する。 ・ウニやカエルの発生過程をもとに、各時期の卵や胚の構造上の変化を学び取らせる。 ・フォークトとシュペーマンの実験をもとに、形成体の役割と誘導の連鎖について理解する。 ・メンデルの法則の内容とその意義について理解する。 ・いろいろな遺伝現象を理解する。 ・遺伝子の本体がDNAであり、DNAの二重らせん構造が決定されるまでの流れを理解する。 ・生物が刺激を受容して応答するまでのしくみ、経路を理解する。 ・膜電位と興奮のしくみ、中枢(脳)の働きについて理解する。 ・具体例をもとに生得的行動、習得的行動を理解する。 ・内部環境の概念と、体液の組成と働きを理解する。 ・浸透圧調節を中心に恒常性維持の仕組みを理解する。 ・自律神経とホルモンによる恒常性維持の仕組みを理解する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・実力テスト ・授業や実験への取り組み状況 ・実験レポート ・セミナーノート等の提出状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・予習は特に求めない。 ・授業に集中して取り組み、既習事項を教科書を使って復習する。 ・問題集を用いて知識の定着を図るとともに、考える力を養う。 ・以上の過程の中で理科的な考え方を学び、分からないことは意欲的に質問する態度を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	生物 I	3年普通科文系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>生物や生命現象に対する興味・関心を高め、基本的な概念や原理・原則の理解に基づく科学的自然観を養わせる。</p> <p>生物や生命現象についての観察、実験などを通して技能を習得させるとともに、その結果をもとに生物学的な探究活動ができる能力と態度を養う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 改訂版高等学校生物 I (数研出版) ・副教材 スクエア最新図説生物 (第一学習社) ・問題集 セミナー生物 I (第一学習社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第3章 遺伝</p> <p>4 遺伝子の本体</p> <p>第5章 内部環境の恒常性</p> <p>1 内部環境としての体液</p> <p>2 体液の恒常性</p> <p>3 自律神経とホルモンによる調節</p> <p>【前期末】</p> <p>第6章 植物の反応と調節</p> <p>1 刺激と植物の反応</p> <p>2 成長の調節</p> <p>3 花芽形成と発芽の調節</p> <p>4 植物の生活と水</p> <p>5 植物の生活と光</p> <p>【後期中間】</p> <p>総復習・センター演習</p> <p>【学年末】</p> <p>総復習・センター演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の本体がDNAであると確定されるまでの流れを理解するとともに、DNAの二重らせん構造が決定されたしくみとその意義を理解する。 ・内部環境の概念と、体液の組成と働きを理解する。 ・浸透圧調節を中心に恒常性維持の仕組みを理解する。 ・自律神経とホルモンによる恒常性維持の仕組みを理解する。 ・植物ホルモンを中心に、植物の反応と成長の調節方法を理解する。 ・光周性の実験をもとに、花芽形成と発芽の過程について理解する。 ・環境要因の変化と植物の反応を理解する。 ・問題演習を通して知識の定着と思考力を養う。 ・問題演習を通して知識の定着と思考力を養う。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・実力テスト ・授業や実験への取り組み状況 ・実験レポート ・セミナーノート等の提出状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・予習は特に求めない。 ・授業に集中して取り組み、既習事項を教科書を使って復習する。 ・問題集を用いて知識の定着を図るとともに、考える力を養う。 ・総復習では予習を必須とする。 ・以上の過程の中で理科的な考え方を学び、分からないことは意欲的に質問する態度を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	生物Ⅱ	3年普通科理系(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>生物や生命現象に対する興味・関心を高め、基本的な概念や原理・原則の理解に基づく科学的自然観を養わせる。</p> <p>生物や生命現象についての観察、実験などを通して技能を習得させるとともに、その結果をもとに生物学的な探究活動ができる能力と態度を養う。</p>		<p>・教科書 改訂版高等学校生物Ⅰ(数研出版) 改訂版高等学校生物Ⅱ(数研出版)</p> <p>・副教材 スクエア最新図説生物(第一学習社)</p> <p>・問題集 セミナー生物Ⅰ・Ⅱ(第一学習社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第4章 刺激の受容と反応</p> <p>4 動物の行動</p> <p>第5章 内部環境の恒常性</p> <p>1 内部環境としての体液 2 体液の恒常性</p> <p>3 自律神経とホルモンによる調節</p> <p>第6章 植物の反応と調節</p> <p>1 刺激と植物の反応 2 成長の調節</p> <p>3 花芽形成と発芽の調節 4 植物の生活と水</p> <p>5 植物の生活と光</p> <p>第1章 生体の機能とタンパク質</p> <p>1 生体のタンパク質</p> <p>2 生体内の化学反応と酵素</p> <p>3 異化 4 同化 5 タンパク質の機能</p> <p>【前期末】</p> <p>第2章 遺伝情報とその発現</p> <p>1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現</p> <p>3 形質発現の調節 4 バイオテクノロジー</p> <p>第5章 個体群の構造と維持</p> <p>1 個体群とその成長</p> <p>2 個体群内の個体間の関係</p> <p>3 異種個体群間の関係</p> <p>4 植物の物質生産と生活</p> <p>【後期中間】</p> <p>第6章 生物群集と生態系</p> <p>1 生物群集の分類と構造</p> <p>2 生物群集の遷移と分布</p> <p>3 生態系とそのはたらき</p> <p>4 生態系の平衡と保全</p> <p>第3章 生物の起源と進化</p> <p>1 生命の起源 2 生物の変遷</p> <p>3 進化の証拠 4 進化のしくみ</p> <p>第4章 生物の系統と分類</p> <p>1 多様な生物と分類</p> <p>2 原核生物界・原生生物界・菌界</p> <p>3 植物界 4 動物界</p> <p>【学年末】</p> <p>総復習・センター演習</p>		<p>・具体例をもとに生得的行動、習得的行動を理解する。</p> <p>・内部環境の概念と、体液の組成と働きを理解する。</p> <p>・浸透圧調節を中心に恒常性維持の仕組みを理解する。</p> <p>・自律神経とホルモンによる恒常性維持の仕組みを理解する。</p> <p>・植物ホルモンを中心に、植物の反応と成長の調節方法を理解する。</p> <p>・光周性の実験をもとに、花芽形成と発芽の過程について理解する。</p> <p>・環境要因の変化と植物の反応を理解する。</p> <p>・触媒の一般的性質と酵素の特殊性を理解する。</p> <p>・呼吸と光合成をもとに、異化と同化のしくみを理解する。</p> <p>・生体反応に関わるタンパク質の機能を理解する。</p> <p>・遺伝子の本体がDNAであることを確認する。</p> <p>・転写と翻訳をへて遺伝形質は発現することを理解する。</p> <p>・細胞ごとに必要なときに必要な遺伝子が発現することを理解しまた、バイオテクノロジーの有用性と危険性を理解する。</p> <p>・個体群の概念を理解する。</p> <p>・個体群における作用、反作用、相互作用の関係を理解する。</p> <p>・生態系の概念を理解する。</p> <p>・生態系の現状とその保全について理解する。</p> <p>・生物界の変遷と進化のしくみを理解する。</p> <p>・系統と分類の概念を理解する。</p> <p>・問題演習を通して知識の定着と思考力を養う。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>・定期考査・実力テスト</p> <p>・授業や実験への取り組み状況</p> <p>・実験レポート</p> <p>・セミナーノート等の提出状況</p>		<p>・予習は特に求めない。</p> <p>・授業に集中して取り組み、既習事項を教科書を使って復習する。</p> <p>・問題集を用いて知識の定着を図るとともに、考える力を養う。</p> <p>・総復習では予習を必須とする。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	理数生物	3年理数科(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>生物や生命現象に対する興味・関心を高め、基本的な概念や原理・原則の理解に基づく科学的自然観を養わせる。</p> <p>生物や生命現象についての観察、実験などを通して技能を習得させるとともに、その結果をもとに生物学的な探究活動ができる能力と態度を養う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 改訂版高等学校生物Ⅰ(数研出版) 改訂版高等学校生物Ⅱ(数研出版) ・副教材 スクエア最新図説生物(第一学習社) ・問題集 セミナー生物Ⅰ・Ⅱ(第一学習社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第4章 刺激の受容と反応</p> <p>4 動物の行動</p> <p>第5章 内部環境の恒常性</p> <p>1 内部環境としての体液 2 体液の恒常性</p> <p>3 自律神経とホルモンによる調節</p> <p>第6章 植物の反応と調節</p> <p>1 刺激と植物の反応 2 成長の調節</p> <p>3 花芽形成と発芽の調節 4 植物の生活と水</p> <p>5 植物の生活と光</p> <p>第1章 生体の機能とタンパク質</p> <p>1 生体のタンパク質</p> <p>2 生体内の化学反応と酵素</p> <p>3 異化 4 同化 5 タンパク質の機能</p> <p>【前期末】</p> <p>第2章 遺伝情報とその発現</p> <p>1 DNAの構造と複製 2 遺伝情報の発現</p> <p>3 形質発現の調節 4 バイオテクノロジー</p> <p>第5章 個体群の構造と維持</p> <p>1 個体群とその成長</p> <p>2 個体群内の個体間の関係</p> <p>3 異種個体群間の関係</p> <p>4 植物の物質生産と生活</p> <p>【後期中間】</p> <p>第6章 生物群集と生態系</p> <p>1 生物群集の分類と構造</p> <p>2 生物群集の遷移と分布</p> <p>3 生態系とそのはたらき</p> <p>4 生態系の平衡と保全</p> <p>第3章 生物の起源と進化</p> <p>1 生命の起源 2 生物の変遷</p> <p>3 進化の証拠 4 進化のしくみ</p> <p>第4章 生物の系統と分類</p> <p>1 多様な生物と分類</p> <p>2 原核生物界・原生生物界・菌界</p> <p>3 植物界 4 動物界</p> <p>【学年末】</p> <p>総復習・センター演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・具体例をもとに生得的行動、習得的行動を理解する。 ・内部環境の概念と、体液の組成と働きを理解する。 ・浸透圧調節を中心に恒常性維持の仕組みを理解する。 ・自律神経とホルモンによる恒常性維持の仕組みを理解する。 ・植物ホルモンを中心に、植物の反応と成長の調節方法を理解する。 ・光周性の実験をもとに、花芽形成と発芽の過程について理解する。 ・環境要因の変化と植物の反応を理解する。 ・触媒の一般的性質と酵素の特殊性を理解する。 ・呼吸と光合成をもとに、異化と同化のしくみを理解する。 ・生体反応に関わるタンパク質の機能を理解する。 ・遺伝子の本体がDNAであることを確認する。 ・転写と翻訳をへて遺伝形質は発現することを理解する。 ・細胞ごとに必要などきに必要な遺伝子が発現することを理解しまた、バイオテクノロジーの有用性と危険性を理解する。 ・個体群の概念を理解する。 ・個体群における作用、反作用、相互作用の関係を理解する。 ・生態系の概念を理解する。 ・生態系の現状とその保全について理解する。 ・生物界の変遷と進化のしくみを理解する。 ・系統と分類の概念を理解する。 ・問題演習を通して知識の定着と思考力を養う。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・実力テスト ・授業や実験への取り組み状況 ・実験レポート ・セミナーノート等の提出状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・予習は特に求めない。 ・授業に集中して取り組み、既習事項を教科書を使って復習する。 ・問題集を用いて知識の定着を図るとともに、考える力を養う。 ・総復習では予習を必須とする。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
理科	地学 I	2年普通科文系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
地球及びそれを取り巻く太陽系や宇宙について、空間的・時間的な変化の視点からとらえることができる力を養う。		【教科書】 地学 I (啓林館) 【副教材】 ニューステージ地学図表 (浜島書店) 【問題集】 リードα地学 I (数研出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 第1部 固体地球とその変動 第1章 地球 1 地球の概観 2 地球の内部構造 第2章 現在の地球の活動 1 プレートとその動き 2 地震 3 火山活動と火成岩の形成 【前期末】 第3章 1 地殻変動と地質構造の形成 2 造山帯と変成作用 第2部 地球の歴史 第1章 地球史の読み方 1 堆積岩とその形成場 2 地層と化石 【後期中間】 第2部 地球の歴史 第1章 地球史の読み方 3 地球史の組み立て 第2章 地球と生命の進化 1 先カンブリア時代 2 顕生代 【学年末】 第3部 大気・海洋と気象 第1章 大気と水 1 大気圏 2 水蒸気と雲 第2章 大気の運動 1 地球の熱収支 1 風		<ul style="list-style-type: none"> ・地球の形、重力、地磁気、地殻熱流量について理解する。 ・地震波と地球内部の構造について理解する。 ・プレートテクトニクスが成立した過程を理解する。 ・プレートテクトニクスにより、地震、火山のしくみを理解する。 ・プレートテクトニクスにより、変動や造山運動のしくみを理解する。 ・地球の過去をひもとく方法を理解する。 ・地質時代と生命の進化の過程を理解する。 ・大気圏の構造を理解する。 ・水が熱を運搬するしくみやそれに伴う現象を理解する。 ・太陽のエネルギーによる大気の循環と風が吹くしくみを理解する。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・実力テスト・単元テスト ・授業や実験への取り組み状況 ・レポート等の提出物 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組み、ノートを確実にとる。 ・問題集を用いて知識の定着を図る。 ・授業の中でわからないことは積極的に質問する。 ・様々な疑問を解決していく過程で科学的な考え方を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
保健体育	体育	1年普通科・理数科(3単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
・基礎体力の向上と運動技能の修得、運動の喜びや楽しさを味わうと共に安全に対する配慮ができるようにする。		副教材 最新スポーツルール'11(大修館)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 体づくり運動(男女共通)</p> <p>2 柔道(男) ソフトボール(女) テニス(女)</p> <p>3 体育理論(男女共通)</p> <p>【前期末】</p> <p>1 ハンドボール(男女) 水泳(男女)</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p> <p>【後期中間】</p> <p>1 サッカー(男) バスケットボール(女)</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p> <p>【学年末】</p> <p>1 バレーボール(男) バスケットボール(男) ダンス(女)</p> <p>卓球(女) バドミントン(女)</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p>		<p>・身体活動を創意工夫することにより、自己に適した実践力を身につける。</p> <p>・基本動作を身につけると共に、個人の能力に応じた対人的技能を修得する。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・自己能力に応じて泳法技能を高め、速く泳いだり、長く泳いだりすることができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、防御から攻撃への連携を生かしたゲームができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・自己能力に応じた課題を選び、みんなで楽しく踊ったりして、交流し、発表できる。</p> <p>・相手の動きや球種に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・相手の動きやフライトの特徴に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・出席、服装、授業への取り組み状況</p> <p>・実技試験</p>		<p>・準備運動や補強運動を行い、身体のコンドィションを整える。</p> <p>・各種目の運動の特性に応じた基礎的な個人的・集団的スキルを確認しながら学習する。</p> <p>・ゲームや試合を通じて個人的・集団的スキルが活用しているかを確認しながら学習する。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
保健体育	体育	2年普通科・理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 個人技能や集団技能の向上を図るようにする。 安全に対して理解を深め、適切な対応ができるようにする。 		副教材 最新スポーツルール'10(大修館)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 体づくり運動(男女共通)</p> <p>2 柔道(男) バレーボール(女)</p> <p>3 体育理論(男女共通)</p> <p>【前期末】</p> <p>1 ハンドボール(男女) 水泳(男女)</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p> <p>【後期中間】</p> <p>1 ソフトボール(男) テニス(男) バスケットボール(女)</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p> <p>【学年末】</p> <p>1 バレーボール(男) バスケットボール(男) ダンス(女) 卓球(女) バドミントン(女)</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 身体活動を創意工夫することにより、自己に適した実践力を身につける。 自己能力に応じた技を選び、相手の動きに対応した攻防ができる。 ゲームの特性を理解し、防御から攻撃への連携を生かしたゲームができる。 運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。 自己能力に応じて泳法技能を高め、速く泳いだり、長く泳いだりすることができる。 運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。 相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームができる。 ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。 運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ゲームの特性を理解し、防御から攻撃への連携を生かしたゲームができる。 ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。 自己能力に応じた課題を選び、誰とでも協力して課題を解決できる。 相手の動きや球種に対応した作戦を立て、ゲームができる。 相手の動きやフライトの特徴に対応した作戦を立て、ゲームができる。 運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、服装、授業への取り組み状況 実技試験 		<ul style="list-style-type: none"> 準備運動や補強運動を行い、身体のコンディションを整える。 各種目の運動の特性に応じた基礎的な個人的・集団的スキルを確認しながら学習する。 ゲームや試合を通じて個人的・集団的スキルが活用しているかを確認しながら学習する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
保健体育	体育	3年普通科文系(3単位)・理系・理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
・生涯を通じて継続的に運動のできる資質や能力を育てるようにする。		副教材 最新スポーツルール'09(大修館)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 体づくり運動(男女共通)</p> <p>2 選択制Ⅰ(男女共通)</p> <p>バレーボール</p> <p>サッカー</p> <p>バドミントン</p> <p>卓球</p> <p>3 体育理論(男女共通)</p> <p>【前期末】</p> <p>1 選択制Ⅱ(男女共通)</p> <p>ハンドボール</p> <p>ソフトボール</p> <p>水泳</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p> <p>【後期中間】</p> <p>1 選択制Ⅲ(男女共通)</p> <p>バスケットボール</p> <p>テニス・ソフトテニス</p> <p>バドミントン</p> <p>卓球</p> <p>2 体育理論(男女共通)</p>		<p>・身体活動を創意工夫することにより、自己に適した実践力を身につける。</p> <p>・自己の興味や適正に応じて種目を選択できる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、防御から攻撃への連携を生かしたゲームができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・相手の動きやフライトの特徴に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・相手の動きや球種に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p> <p>・自己の興味や適正に応じて種目を選択できる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・自己能力に応じた課題解決を目指して、計画的な練習の仕方や競泳の仕方を工夫することができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p> <p>・自己の興味や適正に応じて種目を選択できる。</p> <p>・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用してゲームができる。</p> <p>・相手の動きや打球に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・相手の動きやフライトの特徴に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・相手の動きや球種に対応した作戦を立て、ゲームができる。</p> <p>・運動についての科学的理解を深め、それらを実践に生かすことができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・出席、服装、授業への取り組み状況</p> <p>・実技試験</p>		<p>・各種目のリーダーを中心に、学習を展開する。</p> <p>・準備運動や補強運動を行い、身体のコンディションを整える。</p> <p>・各種目の運動の特性に応じた基礎的な個人的・集団的スキルを確認しながら学習する。</p> <p>・ゲームや試合を通じて個人的・集団的スキルが活用しているかを確認しながら学習する。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
保健体育	保健	1年普通科・理数科(1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。</p>		<p>・教科書 改訂版現代保健体育(大修館) ・副教材 改訂版現代保健ノート(大修館)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 1 現代社会と健康 (1) 私たちの健康のすがた (2) 健康のとらえ方 (3) さまざまな保健活動や対策 (4) 生活習慣病と日常の生活行動 (5) 喫煙と健康</p> <p>【前期末】 (6) 飲酒と健康 (7) 薬物乱用と健康 (8) 医薬品と健康 (9) 感染症とその予防 (10) エイズとその予防</p> <p>【後期中間】 (11) 健康にかかわる意志決定・行動選択 (12) 意志決定・行動選択に必要なもの (13) 欲求と適応機制 (14) 心身の相関とストレス (15) ストレスへの対処 (16) 自己実現</p> <p>【学年末】 (17) 交通事故の現状と要因 (18) 交通社会における運転者の資質と責任 (19) 安全な交通社会づくり (20) 応急手当の意義とその基本 (21) 心肺蘇生法 (22) 日常的な応急手当</p>		<p>・現在の我が国の健康水準について説明できる。 ・現代社会における健康の成立要因や条件について説明できる。 ・我が国や世界における保健活動や対策について説明できる。 ・生活習慣病を防ぐ方法を食事・運動等の側面から考えられる。 ・喫煙した場合、どのような問題がおこるかを考えられる。</p> <p>・飲酒した場合、どのような問題がおこるかを考えられる。 ・薬物乱用した場合、どのような問題がおこるかを考えられる。 ・医薬品の役割について説明できる。 ・感染症問題防止策について考えられる。 ・エイズや性感染症予防策について考えられる。</p> <p>・意志決定・行動選択に影響する要因を例を用いて説明できる。 ・適切な意志決定・行動選択に必要な事を例を用いて説明できる。 ・不安や緊張・悩みに対する適応機制の例を説明できる。 ・心と体の働きが相互に影響しあう関係について説明できる。 ・ストレスについて、自分でとることができる対処法を考えられる。 ・自分にとっての自己実現とは何なのかを考えられる。</p> <p>・我が国の交通事故の特徴について説明できる。 ・安全な運転のために運転者に必要とされるものを説明できる。 ・安全な交通社会をつくるための方策について説明できる。 ・応急手当の意義や手順について説明できる。 ・心肺蘇生法を行うことができる。 ・日常的な怪我の応急手当や方法を説明し、適切な手当ができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(保健ノート等) ・定期考査</p>		<p>・教科書を中心に、基礎的な事項を確認しながら学習する。 ・保健ノートを活用して、理解を深めさせる。 ・新聞記事やニュース等身近な問題を取り上げて、興味・関心を持つことができる授業を展開する。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
保健体育	保健	2年普通科・理数科(1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性が理解できるようにする。 社会生活における健康の保持増進には、環境などが深く関わっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について理解できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書 改訂版現代保健体育(大修館) 副教材 改訂版現代保健ノート(大修館) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>2 生涯を通じる健康</p> <p>(1)思春期と健康</p> <p>(2)性意識と性行動の選択</p> <p>(3)結婚生活と健康</p> <p>(4)妊娠・出産と健康</p> <p>(5)家族計画と人工妊娠中絶</p> <p>【前期末】</p> <p>(6)加齢と健康</p> <p>(7)高齢者のための社会的とりくみ</p> <p>(8)保健制度と保健サービスの活用</p> <p>(9)医療制度と医療費</p> <p>(10)医療機関と医療サービスの活用</p> <p>【後期中間】</p> <p>3 社会生活と健康</p> <p>(1)大気汚染と健康</p> <p>(2)水質汚濁と健康</p> <p>(3)土壌汚染と健康</p> <p>(4)健康被害の防止と環境対策</p> <p>(5)環境衛生活動のしくみと働き</p> <p>【学年末】</p> <p>(6)食品衛生活動のしくみと働き</p> <p>(7)食品と環境の保健と私たち</p> <p>(8)働くことと健康</p> <p>(9)労働災害・職業病と健康</p> <p>(10)健康的な職業生活</p>		<ul style="list-style-type: none"> 思春期における体の発達や行動面・心理面の特徴が説明できる。 性意識の男女差を、性的欲求のあらわれ方の違いを説明できる。 結婚生活が家族の健康づくりにどう関わっているかを説明できる。 受精、妊娠、出産の過程が説明できる。 健康上からみた家族計画の意義について説明できる。 加齢に伴う心身の変化について、形態・機能面から説明できる。 高齢者の生活と健康に関する現状や課題について説明できる。 保健行政の役割としくみについて説明できる。 我が国における医療保険のしくみを説明できる。 医療機関の選び方について具体的に説明できる。 大気汚染の原因と健康への影響を例をあげて説明できる。 水質汚濁の原因と健康への影響を例をあげて説明できる。 土壌汚染の原因と健康への影響を例をあげて説明できる。 環境汚染の防止・改善策をあげて説明できる。 ごみ・し尿や上下水道整備の問題点と対策について説明できる。 食品衛生管理対策について例をあげて説明できる。 食品安全対策やごみによる環境汚染予防対策について説明できる。 働くことと健康が相互に影響することの例をあげて説明できる。 職場における健康管理の必要性について説明できる。 職場の健康増進対策について説明できる。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 提出物(保健ノート等) 定期考査 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書を中心に、基礎的な事項を確認しながら学習する。 保健ノートを活用して、理解を深めさせる。 新聞記事やニュース等身近な問題を取り上げて、興味・関心を持つことができる授業を展開する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
芸術	音楽Ⅰ	1年普通科(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 音楽の幅広い活動を通して、表現にかかわる基本・技術を身につけ、生涯にわたって音楽を愛好する心情を養う。 我が国および諸外国の優れた作品を鑑賞し、歴史的文化的背景をとらえより深く味わう。 		「音楽ⅠTutti」(教育出版) 「ザ・ベーシックス・オブ・ミュージック」(教育芸術社)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 デュエット・独唱に挑戦 「モーツァルト」「シューベルト」 【前期末】 オペラ、ミュージカルの世界 器楽 1 (ギター基本) 【後期中間】 【学年末】 ・音楽史と鑑賞 古代～バロック 「バッハ」「ベートーヴェン」 ・器楽 2 (ギター応用) ・一年のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> 親しみやすい曲を二部合唱に編曲されたもの取り組み、中学での基礎基本を確認し、デュエットを体験する。 外国語の語感を生かし、アリア、カンツォーネなど独唱曲に取り組む。 モーツァルト、シューベルトの作品を歌唱、鑑賞を行い音楽史の流れについて興味を持つ オペラ、ミュージカルの歴史を学び、作品を鑑賞し、その関連曲を歌う。 ギターの基本奏法・基本知識を身につけ簡単な曲に挑戦する。演奏に必要なソルフェージュ・楽典の力を身につけ、創作活動への足がかりとする。 古代～バロックまでの流れを把握し、関連曲を鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> バッハ、ベートーヴェンの作品の鑑賞、歌唱を行い、音楽誌の流れを理解する。 古代～ロマン派までの音楽史の流れを理解し、鑑賞、関連曲の独唱・合唱を楽しむ 学んだギター基本意識、基本奏法を生かしの学習を基に曲の演奏に挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> 一年のまとめとして学年末考査を受ける。 ノート整理提出 	
評価の方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 実技テスト(前期末) 作詞作曲コンクール課題提出 実技テスト歌唱ギター(学年末) 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度中にギターを一人一本、音楽ソフトとその再生環境を整え、さらに充実した環境を整備する。 「自分で学ぶ」態度と方法を見につけるため積極的な態度で授業に臨む 音楽の本質は知識ではないが、音楽の視野を広げるため理論面でも基本的事項を理解し身につけようとする姿を期待する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
芸術	音楽Ⅱ	2年普通科(1単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 音楽Ⅰの学習の上に立ち、音楽の幅広い活動を通して、表現にかかわる基本・技術を身につけ、生涯にわたって音楽を愛好する心情を養う。 我が国および諸外国の優れた作品を鑑賞し歴史的文化的背景をとらえさらに深く味わう。 		「音楽ⅡTutti」(教育出版) 基礎から学ぶ高校音楽(啓隆社)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 デュエット・独唱に挑戦 2 オペラ、ミュージカルの世界 2 【前期末】 ・音楽史と鑑賞 【後期中間】 【学年末】 ・器楽(三味線) ・日本音楽史と鑑賞		・親しみやすい楽曲を歌唱、重唱し昨年度の学習事項の確認をする オペラ、ミュージカルの知識をさらに深め、作品を鑑賞しその関連曲を歌う。 ・後期ロマン派～現代までの音楽史の流れを理解し、鑑賞、関連曲の独唱・合唱を楽しむ ・日本音楽の歴史を学び、鑑賞を行う ・三味線の基本奏法・基本知識を身につけ、和楽器の演奏を体験する ・現在の自分と音楽の関わりについて考えを深める	
評価の方法		学習の方法	
・出席、授業への取り組み状況 ・実技テスト ・レポート		・「自分で学ぶ」態度と方法をさらに見につけるため積極的な態度で授業に臨む ・限られた時間を有効に集中して取り組む	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
芸術	美術 I	1年普通科(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・形式にとらわれることなく、伸び伸びと制作する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 高校美術 I (日本文教出版) ・教材・教具 スケッチブック、ケント紙 アクリル絵の具、水彩用具 版木、彫刻刀、視聴覚機材 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 デザイン</p> <p>(1) ポスター制作 選挙・防災・年金・大気汚染・緑化運動をテーマとして</p> <p>【前期末】</p> <p>2 絵画</p> <p>(1) 鑑賞 作家研究 1</p> <p>(2) 水彩画 身近な風景を描く</p> <p>【後期中間】</p> <p>【学年末】</p> <p>3 版画</p> <p>(1) 鑑賞 作家研究 2</p> <p>(2) 木版画 心に残った出来事</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・社会と自分たちとの繋がりを考え、問題意識を持つてよりよい方向への提案をポスターとして表現することができる。 ・表現方法や表現技法を工夫することができる。 ・美的構成や独自の発想を大切にし、発言力豊かに表現することができる。 ・ポスターの社会的機能を理解することができる。 ・ビデオ鑑賞を通してその作家と作品が生まれた時代背景や表現方法を学ぶとともに鑑賞力を身につけることができる。 ・対象を深く観察し、自分の心に響くものを発見し、作品のテーマとして明確にすることができる。 ・感動した事柄を構図・画面構成を工夫しながら効果的に表現することができる。 ・画面を全体としてとらえながら、制作を進めることができる。 ・作家研究 1 に同じ。 ・自分が今までに体験し、心に残った出来事を心豊かに表現することができる。 ・画面構成や表現を工夫することで情景を伝えることができる。 ・木版木の技法を理解し、特性を生かした表現ができる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・レポート ・作品 		<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、考えた事柄がよりの確に伝わる表現の工夫をする。 ・普段から心を動かされる形や風景、事柄に注意をはらって生活する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
芸術	美術Ⅱ	2年普通科(1単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 ・自己をみつめ、自分の作品を大切に思う気持ちを育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 高校美術Ⅱ(日本文教出版) ・教材・教具 スケッチブック、粘土 陶芸用具、固形水彩絵の具 エッチングプレート、プレス機 ニードル、視聴覚機材 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 デザイン</p> <p>(1) 陶芸 器をつくる</p> <p>【前期末】</p> <p>2 絵画</p> <p>(1) 淡彩画 絵手紙をつくる</p> <p>【後期中間】</p> <p>【学年末】</p> <p>(1) 版画(エッチング) 精密描写による自画像</p> <p>3 鑑賞</p> <p>(1) 作家研究</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確にし、意図された作品をつくることができる。 ・粘土の素地(黒色)と化粧土(白色)の調和を考えた図柄を考えることができる。 ・象嵌の技法を理解して制作することができる。 ・季節の花や果実、野菜などから生命感や季節感を感じ取り、単純な描線と彩色によって個性的に表現することができる。 ・生涯を通して、描画を楽しむ心を知ることができる。 ・写真の自分から、形、陰影をしっかりとらえ、存在感豊かに表現することができる ・銅版画の技法を理解し、特性を生かした表現ができる。 ・映像を通して、作家がどのような意識をもって作品制作に取り組むかを理解することができる。 ・作家について自分の印象や感じたことを述べることができる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・レポート ・作品 		<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものの中から自分が美しいと感じる事柄がどのようなものなのかを探し出す努力をする。 ・限られた時間内で集中して取り組む。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
芸術	書道Ⅰ	1年普通科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。</p>		<p>・教科書 「書Ⅰ」(教育図書) ・教材・教具 文房四宝(筆・墨・硯・紙)、書学習の資料、視聴覚機材</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期】 書道の基礎</p> <p>漢字の書</p> <p>課題選択臨書</p> <p>篆刻</p> <p>漢字仮名交じりの書</p> <p>【後期】 仮名の書</p> <p>漢字仮名交じりの書</p> <p>理論</p> <p>創作 臨書</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材とその扱い方を理解する。 ・書写と書道の共通性と相違について理解する。 ・古典に基づく学習の意義と創作との関連を理解する。 ・代表的な古典を鑑賞し、その特徴を理解した上で、表現に結びつけられるようにする。 ・課題を選択して臨書作品を制作する。 ・作品制作の基礎を学習する。 ・篆刻の制作方法を理解する。 ・漢字仮名交じりの書の基礎として、仮名の基本的な筆づかいを理解する。 ・古筆に基づく学習の意義と創作との関連を理解する。 ・代表的な古筆を鑑賞し、その特徴を理解した上で、表現に結びつけられるようにする。 ・幅広い書表現の方法を学習する。 ・書の歴史を学び、書道用語の基礎を理解する。 ・書の歴史を学び、書道用語を理解する。 ・創作と鑑賞の方法について理解し、作品制作をする。 ・多様な臨書を通して、多様な美を理解する。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(作品・レポート) ・定期考査(学年末のみ) <p>1年間の評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら丁寧に書くことが基本です。 ・自分の課題を確認しながら学習しましょう。 ・他人の作品の良さについても考えましょう。 ・道具を大切に使う姿勢が大切です。 	
教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
芸術	書道Ⅱ	2年普通科(1単位)	選択

到達目標 (ねらい)	使用教科書・教材
<p>・書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす</p>	<p>・教科書 「書Ⅱ」(教育図書) ・教材・教具 文房四宝(筆・墨・硯・紙)、書学習の資料、視聴覚機材</p>
学 習 内 容 (学習時期)	学習到達目標 (ねらい)
<p>【前期】 漢字の書</p> <p>課題選択臨書</p> <p>仮名の書</p> <p>漢字仮名交じりの書</p> <p>理論</p> <p>【後期】 創作・臨書</p> <p>生活の中の書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な古典を鑑賞し、その特徴を理解した上で、表現に結びつけられるようにする。 ・課題を選択して臨書作品を制作する。 ・創意工夫した作品を制作する。 ・多様な古筆を鑑賞し、その特徴を理解した上で、表現に結びつけられるようにする。 ・漢字仮名交じりの書の表現を理解する。 ・古筆を基礎とした創作をする。 ・課題研究 ・創作と鑑賞の方法について理解し、作品制作をする。 ・多様な臨書を通して、多様な美を理解する。 ・生活の中にある手書き文字について学び、書の意義を考えるとともに、日本の伝統文化について考える。
評価方法	学習の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(作品・レポート) <p>1年間の評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い発想するための、試行錯誤を楽しみましょう。 ・自分の作品の良さと課題を明確にしなが、学習しましょう。 ・良い書とは何かを考えましょう。 ・書道で学んだことを生活の中に生かしましょう。

教科名	科目名	開講期（単位数）	必選別
外国語	英語 I	1年普通・理数科 6単位	必修
到達目標（ねらい）		使用教科書・教材	
英語の基本をしっかりと身につけ、広い意味での英語の使用のための基礎を育てる。英語を通じて異文化に対する理解を深めると共に、自分のもっている背景などを認識し、自己理解を深める。		英語 I ① PROMINENCE English I ② DUALSCOPE English Grammar in 27 Stages ③ 英語の発音ノート	
学習内容（学習時期）		学習到達目標（ねらい）	
<p>【前期中間】</p> <p>① Lesson 1～3 ② Lesson 1～7 ③ 母音の発音、子音の発音</p> <p>【前期末】</p> <p>① Lesson 4～6 ② Lesson 8～17</p> <p>【後期中間】</p> <p>① Lesson 7～9 ② Lesson 18～Extra Lesson 2</p> <p>【学年末】</p> <p>① Lesson 10～Option 2 ② Lesson 23～Extra Lesson 6</p>		<p>英文一つ一つを正確な読み取れるようになる。 文型・時制・完了形の暗唱例文を正しく暗唱し、書ける。 既習事項を使って、コミュニケーションができる。</p> <p>英文を正確に読み取り、段落間の関係を理解できるようになる。 助動詞・動詞の態・不定詞・動名詞の暗唱例文を正しく暗唱し、書ける。 既習事項を使って、コミュニケーションができる。</p> <p>英文を正確に読み取り、自分の意見を述べることができる。 分詞・比較の暗唱例文を正しく暗唱し、書ける。 既習事項を使って、コミュニケーションができる。</p> <p>英文を正確に読み取り、自分の意見を述べることができる。 関係詞・仮定法・語法・否定・無生物主語・分詞構文の暗唱例文を正しく暗唱し、書ける。 既習事項を使って、コミュニケーションができる。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>① 関心・意欲・態度 ② 理解・表現の能力 ③ 知識・理解を評価の観点とする。 具体的には：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への積極的な参加 ・ 課題提出状況 ・ 定期テストや小テストの成績 ・ 本文の音読・暗唱テストの成績 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習→授業→復習のサイクルの確立 ・ 完璧な予習：全ての授業は予習を前提として行う。4月の教科ガイドで配付したプリントに掲載されている学習法を参考に、早期に各自の学習法を確立するように心がける。 ・ 授業への集中：授業の完全理解。不明な点をなくす。 ・ 復習の徹底：頭の中で理解して終わりとせず、音読、暗唱、暗写などを通じて、英文を全て頭の中に定着させる。 	

教科名	科目名	開講期 (単位数)	必選別
外国語	英語Ⅱ	2年普通・理数科 6単位	必修
到達目標 (ねらい)			使用教科書・教材
アウトプット活動へつなげるための英語の基本をしっかりと身につけさせる。多くの学習活動を通し、インプットされた英語を使用することでコミュニケーション能力の育成を図る。英語を通じて異文化に対する理解を深めると共に、自分のもっている背景などを認識し、自己理解を深める。			英語Ⅱ PRO-VISION ENGLISH COURSEⅡ
学習内容 (学習時期)		学習到達目標 (ねらい)	
<p>【前期中間】 Lesson 1 ～ Lesson 3</p> <p>【前期末】 Lesson 4 ～ Lesson 6</p> <p>【後期中間】 Lesson 7 ～ 10</p> <p>【学年末】 長文問題読解演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・発音記号を理解し、正しい発音・アクセントで英文を音読できる。 1つ1つの英文の内容を正確に把握できる。 ・以下の文法項目を正確に理解し、英文を作り、使う (話す・書く) ことができる。 関係代名詞の継続用法、SVC (whether 節)、付帯状況の with SVC(現在分詞/過去分詞)、同格の that、関係副詞 when / where suggest that ~ should ~、受け身の進行形、無生物主語構文 ・自分の人生を豊かにするために必要なことは何かを考える。 ・英文を意味の区切り (チャンキング) で読み下し、できるだけ英語の語順で把握できる。 ・以下の文法項目を正確に理解し、英文を作り使う (話す・書く) ことができる。 what 疑問詞、分詞構文、さまざまな動名詞、文修飾の副詞 仮定法(I wish)、It is of ~ to、be to ~、前置詞+関係代名詞 完了形の分詞構文 ・家族の愛情や勇気の意義を理解する。 ・各パラグラフの主題やキーセンテンスを理解しながら英文の内容を正確に把握できる。 ・以下の文法項目を正確に理解し、英文を作り使う (話す・書く) ことができる。 未来進行形、whatever など、if のない仮定法、未来完了形 結果の不定詞、仮定法 as+if ~、挿入、部分否定、動名詞 倒置、省略、There を用いた構文 ・言語、歴史、生物、平和などさまざまなジャンルの文章を読み、筆者の主張を読み取る力を身につける。 ・要約文を作ることで、各パラグラフの要素、構成、展開に着目し、文の主題を把握することができる。 	

評価の観点	学習の方法
<p>①関心・意欲・態度</p> <p>②理解・表現の能力</p> <p>③知識・理解を評価の観点とする。</p> <p>具体的には：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的な参加 ・課題提出状況 ・定期テストや小テストの成績 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習→授業→復習のサイクルの確立 ・自立した学習者：授業の中で様々な学習法を提示するので、それらを参考にして、早期に各自の学習法を確立するように心がけ、自立した学習者になる。 ・授業への集中：授業の完全理解。不明な点をなくす。 ・復習の徹底：頭の中の理解（知的記憶）でおしまいではなく、音読などを通して定着（運動記憶）をはかる。

教科名	科目名	開講期 (単位数)	必選別
外国語	英語W	2年普通・理数科 2単位	必修
到達目標 (ねらい)		使用教科書・教材	
英語の文法基礎をしっかりと身につけ、英語を通しての自己表現のための基礎を育てる。英語を書くことを通じて様々な社会事象に関心を持ち、それらに対する理解と自己理解を深める。		PROMINECE English Writing	
学習内容 (学習時期)		学習到着目標 (ねらい)	
<p>【前期中間】 Prominence EJ Bridge – Lesson 10</p> <p>【前期末】 Prominence Lesson 11 – Lesson 25</p> <p>後期中間】 Prominence Lesson 26 – Lesson 35</p> <p>【学年末】 Write to the Point</p>		<p>There+be 動詞、第1文型～第5文型、関係代名詞、比較未来を表す表現、現在完了形、助動詞を用いて、正確な英文を書ける。また、ある程度まとまった英文を書ける。</p> <p>To 不定詞、動名詞、知覚動詞、受動態、疑問詞、whetherで始まる目的語、仮定法 (I wish)、It – for – to、関係副詞、時条件を表す副詞節、比較、現在進行形、現在完了進行形、分詞の後置修飾を用いて正確な英文を書ける。また、ある程度まとまった英文を書ける。</p> <p>what で始まる目的語、仮定法 (as if)、関係代名詞 what、仮定法過去、語法を用いて正確な英文を書ける。また、これまで学習したことを用いて、パラグラフ構成を意識したまとまった英文を書ける。</p> <p>・後期中間までに学習した事項を用いて、記事、説明文、論説文を書くことができる。 ・日本語と英語の表現の違いを理解し、日本文を正しく解釈しながら、適切な英語に直すことができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>①関心・意欲・態度、②理解・表現の能力、③知識・理解を評価の観点とする。</p> <p>具体的には：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的な参加。 ・課題提出状況。 ・定期テストや小テストの成績。 		<ul style="list-style-type: none"> ・予習→授業→復習のサイクルの確立 ・完璧な予習：全ての授業は予習を前提として行う。 ・基本例文の徹底暗唱：教科書の基本文をしっかりと身につけることが英語で自己表現をするために基礎となる。 ・授業への集中・積極的参加：授業を完全理解し、不明な点をなくす。また、積極的に活動に参加して、授業中での習得を目指す。 ・復習の徹底：頭の中で理解しておしまいでなく、音読などを通じて、英文を全て頭の中に定着させる。教科書を丸ごと一冊頭に入れてしまうつもりで取り組むこと。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
外国語	リーディング	3年普通科文系(5) 3年普通科理系(4) 3年理数科(4)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を伸ばし、その文章の背景知識や論理的に考察する能力を身につける。		<ul style="list-style-type: none"> ・ Crown English Reading New Edition ・ Change the World Approach ・ Neo 現代を読む ・ Neo 現代を探る ・ センター英語模擬演習 40/80 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 Change the World Approach Unit.16～Unit.20 Crown English Reading L.4.6.9. センター入試長文編</p> <p>【前期末】 Neo 現代を読む Unit 1 ～ 20</p> <p>【後期中間】 Neo 現代を探る Unit 1 ～ 20</p> <p>【学年末】 センター試験対策演習 志望大学別二次対策演習</p>		<p>○個々の英文の正確な理解に基づいて、パラグラフがどのような論理のもとに展開されるかを理解できるようになる。</p> <p>○個々の英文あるいはパラグラフの論理展開を理解できる。</p> <p>○まとまった分量の英文の要約文を書くことができる。</p> <p>○客観式問題に対応するスキルを身につける。</p> <p>○大学入試二次試験に耐えうる力を身につける。</p>	
評価の方法		学習の方法	
<p>①関心・意欲・態度 ②理解・表現の能力 ③知識・理解 を評価の観点とする。 具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席、授業への取り組み状況 ・ 定期考査や小テストの成績 ・ 課題提出状況 ・ 小テスト 		<p>○完璧な予習 ・ 全ての授業は予習を前提として行う。</p> <p>○授業への積極的な参加 ・ 予習で発見した不明な点を解消する。 ・ 音読を重視する。</p> <p>○復習の徹底 ・ 読む、書く、等の身体活動を通じた復習を、授業のあるなしにかかわらず毎日行う。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
外国語	ライティング	3年普通科文系・理系、理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
情報や考えなど、場面や目的に応じて英語で正しく書いて伝える能力を更に伸ばす。		1 入試必携英作文 Write to the Point 2 Write it Right 英作文 3 速読英単語 必修編	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>入試必修英作文 L.11~L.18 Exercise A L.1~L.4 Exercise B</p> <p>【前期末】</p> <p>入試必携英作文 L.5~L.18 Exercise B L.19, L.20 自由英作文</p> <p>【後期中間】</p> <p>Write it Right 英作文 Part I 1~15</p> <p>【学年末】</p> <p>Write it Right 英作文 Part II Part III 志望大学別二次対策演習</p>		<p>1 仮定・条件の基本・応用、比較の基本・応用、譲歩の表、またその他の重要表現を用い短い文を書くことができる。 主語・目的語・理由を表す比較的難しい英作文ができる。</p> <p>1 時制、動詞の語法、数字の表現、仮定・条件の基本・応用、比較の基本・応用、譲歩の表、またその他の重要表現を用い比較的難しい英作文ができる。 2 自由英作文の書き方の基本を理解する。</p> <p>1 目的・意図・原因・理由・結果・程度・条件・仮定・願望・依頼・譲歩・対立・否定・比較・比例・関連・除外・様態・受け身・使役・可能・時間・数量・習慣・強調・疑問・推測・当然・助言・命令などの表現を的確に用い、英作文を書くことができる。</p> <p>1 トピック別の英作文と、自由英作文を的確に書くことができる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>①関心・意欲・態度 ②理解・表現の能力 ③知識・理解 を評価の観点とする。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み(主に速読英単語小テストの結果) ・定期考査 		<p>1 予習ではまず辞書を使わずに問題に取り組み、自分で文法・語法的に正しいと分かっている表現で書いてみる。</p> <p>2 書いた英文は辞書や参考書を使い、単語の綴り間違いがないか、時制を適切に用いているかなどについて推敲し、出来る限り完璧な英文を書くように努めること。</p> <p>3 授業では、文法・構文が正しく用いられているか、読み手に正しく伝わるように語彙の選択が適切であるかを中心に解説を聞き、自分が書いた英文を第三者の目で添削するつもりで臨む。</p> <p>4 外国語は自分で努力して学んだもの以外には身に付かない。復習時は音読したり、書いた文を多く使ってみたりすることが上達の秘訣である。日頃から例文などで基本構文を確認し、小テストでは常に満点を取るよう努力する前向きな学習態度が非常に重要である。</p> <p>5 覚えるべきは覚える、筋道だった方法で考えるところは考える、この二本の線を中心に、二次対策演習では記述問題を中心に大学入試問題レベルで問題演習を行う。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
家庭	家庭基礎	1年普通科・理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 生活者として自立するために必要な、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活についての知識・技術を習得する。 家庭生活の担い手として、その充実向上を図る能力と実践的態度を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書「新 家庭基礎 21」実教出版 副教材「新食品成分表」とうほう 「家庭科学学習ノート」高教研家庭部会編集 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>第1章 人生を拓く</p> <p>①自分の人生を拓く ②青年期と自立 ③仕事と生活を考える ④家族のこれまで ⑤家族をめぐる法律 ⑥今日の家族と多様な生き方 ⑦個人・家族を支える</p> <p>第2章 生命を育てる</p> <p>①育つことから育てることへ ②豊かな発達を求めて ③心地よい生活をつくる</p> <p>【前期末】</p> <p>第4章 よりよい生活を創る ー楽しく食べるー</p> <p>①食べることと健康 ②栄養と食品 ③安全な食生活 ④食事を計画する</p> <p>【後期中間】</p> <p>調理実習 包丁の使い方・調理基礎 ・日本型食事献立・中国風献立 ・西洋料理献立</p> <p>第3章 高齢社会を生きる</p> <p>①高齢者の暮らし ②高齢者を支える社会の仕組み</p> <p>第4章 よりよい生活を創る ー人間らしく住むー</p> <p>①人間らしく住むために ②健康で安全に住むために ③居心地のよいまちづくり</p> <p>第5章 消費社会を生きる</p> <p>①私は消費者 ②自立した経済生活のために ③環境を守る消費生活</p> <p>【学年末】</p> <p>第4章 よりよい生活を創る ー自分らしく着るー</p> <p>①衣服と出会う ②衣服は何でできているか ③衣服とつきあう ④衣生活を創造する</p>		<ul style="list-style-type: none"> 自分を取り巻く人々との関わりを通して、自己理解をし、人生を見つめることができる。 各ライフステージの特徴や課題について理解し、青年期の自立について考えることができる。 職業労働をとおして自分らしいライフスタイルの形成について考えることができる。 家族の機能とその変化、男女共同参画社会を築くことの意義を理解できる。 子を生み育てる意義とその責任について考えることができる。 乳幼児の心身の発達と生活について理解し、そのことを通して親の役割と子育て支援について理解できる。 子どもを取り巻く社会の現状について理解し、安心して子育てができる社会の実現について考えることができる。 食事の意義と健康についての関わりを理解し、自己の食生活を見直し、よい食習慣を身につけることの重要性について理解することができる。 栄養素の種類と特徴を理解できる。 食品の選び方・管理・安全・衛生について理解させる。 調理実験・実習を通し、基礎的な知識と技術を習得できる。 日本の高齢化の現状と課題について考えることができる。 高齢者福祉における家族や地域の役割について理解し、共に生きる社会のあり方について考えることができる。 住居の機能と住環境の要素について学習し、快適で健康的な住まいとは何かを考えることができる。 家庭と国民経済の関わりについて理解することができる。 消費者の権利と責任について学び、賢い消費者活動について理解することができる。 衣服の機能を理解し、目的に応じた着用 について理解する。 被服材料について学び、実験・実習を通して、適切な被服管理について理解することができる。 資源としての衣服のあり方について考え、実習を通してその活用法について理解することができる。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み 定期考査 提出物(製作課題・レポート等)提出状況 ホームプロジェクトの取り組み状況 実習・実技の状況 製作物 		<ul style="list-style-type: none"> 生活理論に偏らず、実験・実習を通して、生涯にわたり生活者として自立した生活することができる知識、技術をしっかりと身につけることが出来るよう学習しましょう。 ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通して自分の生活や地域の生活の課題を見つけましょう。計画立てて解決策を考えて行き、それを実践することで、生活を科学的に探求する方法、問題解決能力を身につけましょう。 学校家庭クラブ活動を通して、世代の異なる人々と交流し、ともに支え合って生活することの大切について考えましょう。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
情報	情報C	1年普通科・理数科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解し、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解し、情報社会に参加する上での望ましい態度を身につける。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 最新情報C(実教出版) ・副教材 最新情報C学習ノート(実教出版) ・「情報サイト」(岩手県総合教育センター制作) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 情報社会に生きる (1) 情報社会とは (2) 携帯電話マナーについて</p> <p>3 メディアとコミュニケーション (1) メディアと表現 (2) メディアと伝達 (3) 情報の受信・発信における心がまえ</p> <p>【前期末】</p> <p>4 グループ演習(総合学習との連携) (1) インタビュー学習のプレゼンテーション</p> <p>5 デジタル化とネットワーク (1) 情報のデジタル化 (2) 効率的な情報通信 (3) ネットワークのしくみとセキュリティ</p> <p>【後期中間】</p> <p>6 情報の活用と個人の責任 (1) 情報の管理と保護 (2) 情報の活用と問題解決 (3) Webページの作成</p> <p>【学年末】</p> <p>6 情報社会をきざく</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容及びコンピュータ室のマナーを理解する。 ・中学までの学習状況の調査、自己紹介文書の作成。 ・私たちの生活や取り巻く社会がどのように変化しているかを情報通信技術の発展という観点から考える。 ・携帯電話マナーを通して「情報社会に参画する態度」を考える。 ・多岐にわたる「メディア」という言葉の意味と特性を理解する。 ・様々なネットワークコミュニケーションの特性を理解し利用する技術を身につける。 ・マスメディアを客観的に分析し効果的な活用を考える。 ・情報の本質を見抜く力を身につける。 ・責任ある情報発信を心掛ける姿勢を身につける。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 ・グループ発表会を通じて相互評価が適切にできるようになる。 ・アナログとデジタルの違いやデジタルの特徴を理解する。 ・デジタル情報の表現やデータ量について理解する。 ・データの圧縮および転送速度について理解する。 ・ネットワークのしくみを理解すると共に、セキュリティの必要性を考える。 ・問題解決の手順を理解する。 ・情報活用の具体的な手法を体験する。 ・研修旅行や調査研究活動を通して学習または体験した事柄を系統的にまとめ、適切に表現し情報発信できるようになる。 ・ユビキタスネットワーク社会への主体的な参加について討論する。 	
評価の方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(課題作品、課題レポート等) ・発表評価(自己評価および相互評価) ・定期考査(年1回) 		<ul style="list-style-type: none"> ・知識を詰め込むのではなく、仕組みや方法を理解することが大切です。 ・実習の内容や結果は、レポートまたは作品としてまとめ提出してもらいます。自分にとっては簡単な内容であっても、更に考察を深めるよう心掛けてください。 ・一人ひとり発表(プレゼンテーション)する機会がありますので、積極的に取り組みましょう。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	1年普通科(1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
1「生きる力」の育成。 2 自ら主体的に問題を解決する能力を育てるとともに他者や社会のためにどういう生き方をすべきか考えることができるようになる。 3「生きた知」を身につけ、自己発信の力をさらに高める。		・地域教材(地域の人材)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 1 新入生ガイダンス1 2 新入生ガイダンス2 3 総合学習オリエンテーション 交通安全講話 4 薬物乱用・ハイテク犯罪防止教育 5 虫の話・命の大切さ 【前期末】 6 インタビュー事前学習1 7 インタビュー事前学習2 8 インタビュー活動 インタビューまとめ インタビュー白聖祭発表 9 防災教育・救急救命法 【後期中間】 10 性・命についての講演会 11 研修旅行自主研修計画 1 12 インタビュー学年発表会 13 研修旅行自主研修計画 2 【学年末】 14 研修旅行自主研修計画 3 15 研修旅行まとめ 16 キャリアアップ講演会 17 理数科課題研究発表会見学		・高校生活における学習・行事・部活動等を紹介し、一高へのスムーズな適応を促す。 ・パネルディスカッションを通して上級生との意見交換を行い、一高生としてのアイデンティティ確立の一助とする。 ・大震災に関連した心のケアを行う。 ・本校の総合学習のねらいを理解する。 ・交通安全について意識を高める。 ・薬物乱用・ハイテク犯罪の危険性を認識できる。 ・命の尊厳を十分に認識し、自分の日常の行動に反映させることができる。多様性を尊重する心を育てる。 ・各界の第1線で活躍されている方々の生の話に触れることによって、幅広い教養を養うとともに、自分の視野の狭さを認識できるようになる。 ・視野を広げるために、自分の足で積極的に生き方を学びに行くことができる。 ・防災・救急救命に対して意識を高め、基本的な対処方法を身につける。 ・不適応傾向の予防。健全な自己肯定力を持てるようになる。 ・グループの他のメンバーと協調して、インタビュー活動での学習内容をまとめ、プレゼンテーションできる。	
評価の観点		学習の方法	
・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(課題レポート等)		・グループ学習・個人研究・発表・討論等に積極的に参加する。 ・体験的・問題解決的な学習活動であるので、広い視野と複眼的なものを見方を重視する。 ・教科・学校の枠を越えて横断的・総合的な学習を行う。 ・上記の活動を契機に社会問題について幅広い興味・関心を持つことが期待される。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	2年普通科(1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」の育成。 ・自ら主体的に問題を解決する能力を育てるとともに他者や社会のためにどういう生き方をすべきか考えることができるようになる。 ・「生きた知」を身につけ、自己発信の力をさらに高める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域教材(特別支援学校、老人福祉施設) ・過去のグループ報告書、 ・自己評価シート、相互評価シート、 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 総合学習交流オリエンテーション 進路研究1</p> <p>2 障害に関する講演会</p> <p>3 交流グループ編成</p> <p>4 進路研究1・2 オープンキャンパス参加</p> <p>【前期末】</p> <p>5 各校施設担当者ガイダンス 交流事業準備/交流記念品製作</p> <p>6 交流事業・まとめの活動</p> <p>7 白聖祭発表準備</p> <p>8 進路研究3</p> <p>【後期中間】</p> <p>9 進路講演会</p> <p>10 キャリアアップ講演会</p> <p>【学年末】</p> <p>11 進路研究4 「新書探訪」1 理数科課題研究発表会見学</p> <p>12 進路研究5 「新書探訪」2</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の総合学習の狙いを理解する。 ・特別支援教育の現状を理解し、「ノーマライゼーション」の考え方ができるようになる。 ・自分の進路目標の確立を促すために、学部・学科の特性を知る。 ・現場で実際の支援教育また介護に従事する方々のお話から実感を持てるようになる。また、グリーンディングカード等の製作活動により協調の精神を学ぶ。 ・各訪問施設での体験学習により、実際に特別支援学校生徒児童や高齢者とふれあい、将来、多方面でリーダーとして社会に貢献できるように、しっかりとした人間性や豊かな感性と思いやりの心を滋養する。 ・相互に理解し合い共生することの大切さを認識できようになる。 ・他者や社会のために自分がどのような生き方をすべきかを考えるきっかけとなる。 ・将来の目標を具体的に形成し、望ましい進路意識と明確な職業観を持てるようになる。 ・自分の進路に関係する新書を探して読むことにより知的好奇心を高めるとともに、グループ学習から新書に関する知識を共有することにより、探求心を高め小論文を考える契機となる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(感想レポート等) ・施設職員の方々及び引率教員による観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習・個人研究・発表・討論等に積極的に参加する。 ・体験的・問題解決的な学習活動であるので、広い視野と複眼的なものの見方を重視する。 ・教科・学校の枠を越えて横断的・総合的な学習を行う。 ・上記の活動を契機に社会福祉について幅広い興味・関心を持つことが期待される。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間(課題研究)	2年理数科(1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ● 「生きる力」の育成。 ● 自ら主体的に問題を解決する能力を育てるとともに、未知の現象を研究するにはどのような姿勢を身につければよいかを考えることができるようになる。 ● 「生きた知」を身につけ、自己発信の力をさらに高める。 ● 科学研究に取り組む意味に対する理解を深め、豊かな感性と思いやりの心を育む。 		<ul style="list-style-type: none"> ● われわれの周囲の科学的事象 ● 過去の課題研究報告集 ● 研修先からの各種資料 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】まで</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題研究ガイダンス 2 課題研究講座(講演会) 3 研究・実験活動 <p>【前期末】まで</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 課題研究中間報告会 5 研究・実験活動 6 研究・実験活動 7 白聖祭発表準備 8 研究・実験活動 <p>【後期中間】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 県内施設見学研修 10 出張講義(普通科と共通) 11 研究・実験活動 <p>【学年末】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 校内理数科課題研究発表会 		<ul style="list-style-type: none"> ● 健全な自己肯定力を持てるようになる。 ● 課題研究の考え方を理解し、自らの研究対象について考えられる。 ● 実験・研究に取り組む上での姿勢について理解する。 ● 理系研究志望者として直面する入試動向を理解し、今後の学習に対する心構えを持つ。 ● 実験指導担当者の指導のもと、自ら行うべき準備・実験・データ処理・仮説の検証・失敗に対する考察を行い、次に生かせる教訓などを得ながら、研究者として誠実に取り組む姿勢を身につける。 ● 研究の途中において、グループ内で取り組み状況・方向性等を確認する機会をもち、適宜修正しながら望ましい研究活動を継続する。 ● 各訪問施設での体験学習により、実際に先端科学にふれ、将来リーダーとして社会に貢献できるように、確かな経験と知識に基づいた論理的思考力を身につける。 ● 身近なところで先端科学を活用している施設を見学することにより、社会とのつながりを認識する。 ● 社会に貢献するためには、自分がどのような将来展望を持つべきかを考えるきっかけとする。 ● 実験研究で得た結果を発表することにより、研究内容をまとめる能力を身につける。 ● 将来の目標を具体的に形成し、望ましい進路意識と明確な職業観を持てるようになる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ● 出席、実験研究への取り組み状況 ● 提出物(レポート等) ● 課題研究報告 ● 施設職員の方々及び引率教員による観察 		<ul style="list-style-type: none"> ● グループ学習・個人研究・発表・討論等に積極的に参加する。 ● インターネットや文献を活用して、広い視野と複眼的なものを見方を重視する。 ● 教科・学校の枠を越えて横断的・総合的に学習を行う。 ● 上記の活動をきっかけとして、科学的分野に幅広い興味・関心を持つことが期待される。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	3年普通科・理数科(1単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
1 「生きる力」の育成。 2 自ら主体的に問題を解決する能力を滋養するとともに、他者や社会のためにどのような生き方をすべきか考えることができるようになる。 3 「生きた知」を身につけ、自己発信の力をさらに高める。 4 生徒の実態を把握し、適性・能力の伸長を目指し、適切な進路指導へ導くための効率的教育活動を進める。		・進路指導資料	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 1 総合学習オリエンテーション 進路ガイダンス1 2 メンタルトレーニング講演会 3 進路ガイダンス2 【前期末】 4 専門分野研究 5 パネルディスカッション 6 キャリアアップ講演会 【後期中間】 7 進路ガイダンス3 8 進路ガイダンス4		・本年度の総合学習の狙いを理解する。 ・入試動向を理解し、受験生として今後の学習に対する心構えができる。 ・将来の目標を具体的に形成し、望ましい進路意識と明確な職業観を持てるようになる。 ・幅広い教養を身につけ、人間性を滋養する。 ・自分の進路目標実現に必要な情報を収集し、活用できる。	
評価の観点		学習の方法	
・出席、授業への取り組み状況 ・提出物(課題レポート等)		・グループ学習・個人研究・発表・討論等に積極的に参加する。 ・問題解決的な学習活動であるので、広い視野と複眼的なものを見方を重視する。 ・上記の活動を契機に社会全般について幅広い興味・関心を持つことが期待される。	

L H R 年間指導計画

月	学年	1学年	2学年	3学年	備考	
4月	主 題	ホームルーム作り	ホームルーム作り	ホームルーム作り		
	目 標	新しい環境への順応	新しい環境への順応	新しい環境への順応		
	内 容	7月	対面式	整容点検①、ホームルーム作り		整容点検①、ホームルーム作り
		15日		対面式		対面式
		18日		生徒総会(決算・予算)、委員会集会		生徒総会(決算・予算)、委員会集会
25日		運動会準備(選手・係決め)		運動会準備(選手・係決め)		
5月	主 題	生徒会活動の推進	生徒会活動の推進	生徒会活動の推進		
	目 標	運動会の成功	運動会の成功	運動会の成功		
	内 容	2月	運動会準備	運動会準備		運動会準備
		9月	学年毎テーマ	学年毎テーマ		学年毎テーマ
		16日	高総体壮行式、生徒会役員選挙	高総体壮行式、生徒会役員選挙		高総体壮行式、生徒会役員選挙
		23日	海派団報告会	学年毎テーマ		学年毎テーマ
30日		生徒総会(上期→下期)	生徒総会(上期→下期)	生徒総会(上期→下期)		
6月	主 題	学習意欲の向上	学習意欲の向上	学習意欲の向上		
	目 標	学習への取り組みの確立	学習への取り組みの確立	部活動・生徒会活動の引継		
	内 容	6月	整容点検②	整容点検②		整容点検②
		13日	心の健康講座	考査前指導		考査前指導
27日		心理検査	心理検査	学年毎テーマ		
7月	主 題	夏季休業へ向けて	夏季休業へ向けて	夏季休業へ向けて		
	目 標	節度ある生活	節度ある生活	節度ある生活		
	内 容	4月	白聖祭準備(展示内容)	白聖祭準備(展示内容)		白聖祭準備(展示内容)
11日		応援委員選挙	応援委員選挙	応援委員選挙		
8月	主 題	高校生としての自覚	高校生としての自覚	高校生としての自覚		
	目 標	白聖祭の成功	白聖祭の成功	白聖祭の成功		
9月	主 題	文武両道	文武両道	進路目標への邁進		
	目 標	部活動の充実	部活動の充実	学習時間の拡大		
10月	内 容	5月	新人大会壮行式	新人大会壮行式	新人大会壮行式	
		12日	考査前指導	考査前指導	考査前指導	
		26日	防災避難訓練	防災避難訓練	防災避難訓練	
		31日	学年毎テーマ	学年毎テーマ	学年毎テーマ	
11月	主 題	生徒会を考える	生徒会を考える	進路目標への邁進		
	目 標	自己認識と安全な生活の確立	自己認識と安全な生活の確立	克己		
	内 容	3月	整容点検④	整容点検④		整容点検④
		17日	教育相談アンケート	教育相談アンケート		教育相談アンケート
		24日	学年毎テーマ	学年毎テーマ		学年毎テーマ
31日		学年毎テーマ	学年毎テーマ	学年毎テーマ		
12月	主 題	集団の中の個人	集団の中の個人	進路目標への邁進	11/28(月)LHRを7校時に	
	目 標	次年度への展望	次年度への展望	後輩への引継		
	内 容	2日	生徒総会(下期→上期)	生徒総会(下期→上期)		生徒総会(下期→上期)
		5日	研修旅行	予餞会準備(発表内容)		学年毎テーマ
12日		予餞会準備(発表内容)	予餞会準備	学年毎テーマ		
1月	主 題	規律ある生活	規律ある生活	/		
	目 標	新たな目標の設定	新たな目標の設定			
	内 容	16日	整容点検⑤・予餞会準備			整容点検⑤・予餞会準備
		23日	予餞会準備			学年毎テーマ
31日		予餞会準備(リハーサル)	学年毎テーマ			
2月	主 題	視野を広げる	次年度への備え	/		
	目 標	1年の反省	リーダーとしての自覚			
2月	内 容	6月	考査前指導	考査前指導		
		6月	考査前指導	考査前指導		
総時間数		31	32	28		

平成23年度教育課程

学 科 名			普 通 科					理 数 科			備 考
教 科	学 年 コース 課 目	学 年 コース 標準単位数	1年	2年		3年		1年	2年	3年	
				文系	理系	文系	理系				
国 語	国語総合	4	5					5			現代文は分割履修 古典は分割履修
	現代文	4		2	2	3 □ 3	2		2	2	
	古典	4		3	3	3 ■ 2	3		2	3	
地理歴史	世界史A	2			▼ 2				2		文系のB科目は2・3年継続履修 理系のB科目は2・3年分割履修
	世界史B	4		4	△ 3	※ 4	△ 3				
	日本史A	2			▼ 2						
	日本史B	4		△ 4	△ 3	※ 4	△ 3				
	地理A	2			▼ 2						
	地理B	4		△ 4	△ 3	※ 4	△ 3		2	2	
公 民	現代社会	2	2					2			
	倫理	2				2 ㄣ ※ 4					
	政治・経済	2				2 ㄣ					
数 学	数学Ⅰ	3	3								1年次は、数学Ⅰ・A終了後に数学Ⅱを履修し、2年次理系は数学Ⅱ・B終了後に数学Ⅲを履修する。数学Ⅱは、1・2年分割履修。数学Ⅲは、2・3年分割履修。
	数学Ⅱ	4	1	4	3	□ 3					
	数学Ⅲ	3			1		4				
	数学A	2	2								
	数学B	2		2	2	■ 2					
理 科	理科総合A	2	3					3			文系はⅠを付した科目を継続履修
	物理Ⅰ	3			▲ 3						
	物理Ⅱ	3					▲ 4				
	化学Ⅰ	3			3		4				
	化学Ⅱ	3									
	生物Ⅰ	3		▲ 3	▲ 3	▲ 3					
	生物Ⅱ	3					▲ 4				
保健体育	体育	7～8	3	2	2	3	2	3	2	2	
	保健	2	1	1	1			1	1		
芸 術	音楽Ⅰ	2	● 2					● 2			Ⅱ・Ⅲを付した科目は各々に対応するⅠを付した科目の継続選択履修 3年次文系はⅡを付した科目の終了後に対応するⅢの科目を履修
	音楽Ⅱ	2		● 1	● 1	2 ㄣ					
	音楽Ⅲ	2				2 ㄣ ※ 4					
	美術Ⅰ	2	● 2					● 2			
	美術Ⅱ	2		● 1	● 1	2 ㄣ					
	美術Ⅲ	2				2 ㄣ ※ 4					
	書道Ⅰ	2	● 2					● 2			
外国語	英語Ⅰ	3	6					6			ライティングは分割履修
	英語Ⅱ	4		4	4			4			
	リーディング	4				5 ▲ 3 ㄣ 2	4		4		
	ライティング	4		2	2	2 ㄣ 1	2		2	2	
家庭情報	家庭基礎	2	2				2				
	情報C	2	2				2				
普通教科・科目の単位数の計			32	32	32	32	32	26	17	15	
理 数	理数数学Ⅰ	5～8						5			理数数学Ⅱは分割履修 理数数学探究は分割履修 理数物理は分割履修 理数化学は分割履修 理数生物は分割履修 理数地学は分割履修
	理数数学Ⅱ	8～14						1	4	5	
	理数数学探究	4～8							2	4	
	理数物理	3～8						▲ 3	▲ 4		
	理数化学	3～8						3	4		
	理数生物	3～8						3	▲ 4		
理数地学	3～8						▲ 3	▲ 4			
専門教科・科目の単位数の計							6	15	17		
ホームルーム活動			1	1	1	1	1	1	1	1	
総合的な学習の時間			1	1	1	1	1	1	1	1	
合 計			34	34	34	34	34	34	34	34	
備 考			各学年・コースにおいて、△▼▲□■●印より各々1科目、※印より2科目を選択して履修する。								